

平成27年5月18日
運営委員会資料

平成26年度
行動計画と
その取組み結果報告書
＝ 組 織 別 ＝

平成27年5月
八戸工業高等専門学校

平成 26 年 度 行 動 計 画

委 員 会 等	担当者	行 動 計 画	頁
運営委員会	企画担当 副校長 [工藤隆]	1. 創立 50 周年記念事業への対応（継続） 2. 会議運営の効率化の追求（継続）	1
入学者選抜委員会	教務主事 [赤 垣]	1. 増募対策の検討 2. 入学者選抜方法の検討	2
教務委員会	教務主事 [赤 垣]	1. 167 単位体制の維持・運用（継続） 2. 学科再編への対応 3. モデルコアカリキュラムへの対応	4
厚生補導委員会	学生主事 [中村重]	1. 課外活動の活性化支援 2. 学生指導・支援の充実 3. 学校行事（学生会・高専祭実行委員会 等）の活性化 4. 平成 26 年度東北地区高専体育大会（A 主管）開催	5
寮務委員会	寮務主事 [河 村]	1. 新しい北辰寮マスタープランの検討 2. 施設・住環境の改善 3. 運営・管理業務の見直し	7
専攻科委員会	専攻科長 [工藤憲]	1. 新たな審査方式における指導体制の整備 2. 国際交流担当との連携による留学支援体制の整備（継続） 3. 入学者の拡大と大学院進学への奨励（継続）	10
施設整備計画委員会	教務主事 [赤 垣]	1. 施設の点検整備（継続）	12
紀要編集委員会	委員長 [菅 原]	1. 紀要投稿数の増募推進	13
環境マネジメント委員会	企画担当 副校長 [工藤隆]	1. 環境負荷の少ないキャンパスづくり（継続）	16
国際交流委員会	委員長 [阿 部]	1. 本科 1 学年から専攻科まで一貫した国際交流推進 2. 情報発信の推進 3. 短期海外研修の引率教員用マニュアル作成 4. 教職員の国際交流推進	17
知的財産委員会	委員長 [矢 口]	1. 知財啓発の為の知財セミナー等の開催（継続）	18
広報委員会	委員長 [菅 原]	1. 八戸高専ホームページの充実 2. 学校案内等の内容充実	19
総合情報センター委員会	センター長 [菅 原]	1. 情報セキュリティ対策の充実（継続） 2. 学内 LAN の整備	20
図書館委員会	館長 [菅 原]	1. 改修後の図書館の活動について 2. 読書習慣を身につけさせるための各種行事の充実（継続）	21
地域テクノセンター委員会	センター長 [矢 口]	1. 産学官金民連携の推進（継続） 2. 共同研究の推進（継続） 3. 地域への貢献（継続）	23

地域文化研究センター 委員会	センター長 [館 野]	1. 共同研究の推進 2. 地域における教養教育活動の企画・実施 3. 『地域文化研究』の平成26年度版の発刊 4. ホームページの整備等、情報発信の推進 5. 収蔵資料の整理と記録	37
廃水処理施設管理運営 委員会	施設長 [長谷川]	1. 廃水処理についての認識の強化 2. 廃水処理施設設備の更新	38
相談室運営委員会	室長 [今 野]	1. 特別支援体制の整備の推進 2. キャリア支援への取り組み 3. 要支援学生の把握	39
危機管理関係	企画担当 副校長 [工藤隆]	1. 緊急時のメール一斉配信システムの構築（継続） 2. 学内におけるリスクの調査（継続） 3. いじめ防止等対策ポリシーの策定と推進	40
男女共同参画委員会	委員長 [戸田山]	1. アンケート調査等を利用した女性教員および女子学生 の就業・就学における困難や意識等に関する現状 把握 2. FD 及び学生対象の講演会などによるワーク・ライフ バランス、キャリア意識形成、学習・就業等につい ての権利の保障、犯罪被害予防などに関する啓発活 動 3. 女子学生支援のための組織づくり・支援体制の強化 の提案と実現 4. 八戸工業高等専門学校としての独自の行動計画の策 定 5. 女性教員、女子学生比率の向上に向けての校内の環 境整備と増募活動	41
産業システム工学プログラム 委員会	委員長 [工藤憲]	1. JABEE 受審の準備	44
産業システム工学プログラム 計画委員会	委員長 [藤 原]	1. 2012 年度改正 JABEE 基準への対応 2. JABEE 継続審査の準備	45
産業システム工学プログラム 点検評価・改善委員会	委員長 [松 橋]	1. 簡略化した授業エビデンス収集方法の定着 2. JABEE 受審に向けての対応	46
教育点検評価・改善委 員会	委員長 [松 橋]	1. 簡略化した授業エビデンス収集方法の定着	47
総合科学科	学科長 [館 野]	1. 教育内容の充実 2. 学生指導の連携 （担任、メンターコーディネーター、相談員等） 3. 大学・大学院編入学希望学生のサポート （試験問題傾向の研究、参考書の調査） 4. 常勤教員人材計画の検討（化学・数学担当欠員の補 充）	48
機械工学科	学科長 [武 尾]	1. 学力向上を目指した学生支援 2. キャリア支援 3. 増募対策 4. 中国との交流推進 5. 日本機械学会東北学生会卒業研究発表会の実施	49
電気情報工学科	学科長 [松 橋]	1. 実験実習の充実 2. 基礎学力の向上 3. 進路支援	51

物質工学科	学科長 [松 本]	1. 学生支援・進路支援の充実 2. 改組に向けた学科・研究の実力向上 3. 専門性を生かした地域貢献	53
建設環境工学科	学科長 [南]	1. 国際的視野を持った実践的教育の推進 2. 個別学生の支援 3. 震災に関する支援活動及び教育研究の展開	54
教育研究支援センター	センター長 [矢 口]	1. 教育研究支援センター室設置による業務の効率化 2. 東北地区連携の推進（継続）	55
空間構造デザイン系	系長 [今 野]	1. 協働によるものづくりの推進 2. 共同研究の推進 3. ルーブリックの作成	56
ロボティクス系	系長 [釜 谷]	1. 授業内容の充実 2. 外部コンテスト参加学生への支援	58
機能創成材料系	系長 [館 野]	1. メンバー入換えに伴う授業内容の見直しと充実 2. 授業評価方法の検討 3. 他系との協力体制の見直し	59
エネルギー系	系長 [南]	1. 再生可能エネルギーの内容強化	60
ナノテクノロジー系	系長 [杉 山]	1. ナノテクノロジーを意識させる実験内容の向上	61
環境・バイオテクノロジー系	系長 [佐々木]	1. 授業内容を記載したテキストを作成することで、学生の理解の向上をはかる。 2. 作年度作成の工学基礎 B に続いて工学基礎 A のテキストを作成する。 3. 工学基礎 B の講義を担当していた大久保教授の転出に伴い、大久保教授分担の講義内容の補充をはかる。	62
数理情報系	系長 [鳴海哲]	1. 授業内容充実の検討と改善	63
産業教育系	系長 [戸田山]	1. キャリアに対する意識づけを目的とした授業の計画と実行 2. 教養教育の充実と基礎的教養の涵養を目的とした読書のためのブックリストの作成	64

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	運営委員会	筆耕者	工藤 隆男
行動計画	1. 創立 50 周年記念事業への対応（継続） 2. 会議運営の効率化の追求（継続）		

1. 創立 50 周年記念事業への対応

「五十年の礎から輝く未来への飛翔」を基本的コンセプトとし創立 50 周年記念事業を実施するに当たり、平成 26 年度に取組んだ事業は以下のとおりである。

○アムール・ド・セリジェの市販開始 平成 26 年 6 月 20 日

昨年度開催した 50 周年記念式典でお披露目となった本校オリジナルブランド酒「Amour de Cerisier 〜恋するおさけ〜」限定約 1000 本の仕込み・製造が 2 月にスタートし、6 月に販売を行った。市内の酒店はもちろんのこと、全国 50 酒店での販売であった。

○学生歌除幕式 平成 26 年 10 月 8 日 第 2 体育館

50 周年記念事業で制定された「学生歌」の掲示を第二体育館と学生昇降口の 2 か所に行った。これに関連し、10 月 8 日の校長講話の後に、学生歌の「除幕式」を行った。詩は複数の応募の中から有馬佳、高橋侑佳（本校学生）のものが選ばれ、幕のデザインは本校の総合デザイン部が担当した。これらの費用については佐々木庄一名誉教授から寄贈して頂いた。

○記念ホール完成 平成 27 年 3 月 31 日。

複数クラス合同授業や卒研発表、講演会等の多目的用途のスペースが不足している状況にあることから、老朽化し取り壊し予定であった旧製図室を大幅に改修・増築し記念ホールとして再生活用することの観点から本事業を実施した。改修その他工事、電気設備工事、機械設備工事については 10 月から 11 月にかけて契約し、費用 5200 万円をかけ 3 月 31 日に完成した。メモ台付椅子 170 脚をはじめとする備品類整備については 1200 万円を要した。これらの財源については、創立記念等寄附金、運営費交付金、その他で賄った。今後は、大規模教室の不足から効率的な時間割編成ができないという問題は軽減できる見込みである。

2. 会議運営の効率化の追求

紙媒体資料の大幅な削減に貢献するのみならず会議運営の効率化、事務量負担軽減に資するため、25 年 9 月から校長の指導により、運営委員会と教員会議におけるペーパーレス化を始めた。資料は会議室内の無線 LAN から提供する方法および関係者に事前に PDF 化した資料をメールで配信する方法で始めた。26 年度もこの取り組みを継続し、当初の目的を達成している。但し、成績資料については情報漏えい防止の観点から、会議席上での USB メモリ配布としている。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	入学者選抜委員会	筆耕者	赤垣 友治
行動計画	1. 増募対策の検討 2. 入学者選抜方法の検討		

1. 増募対策の検討

(1) 中学校進路指導説明会（高校説明会）への積極的参加

平成25年度は依頼のあった8中学校（八戸地区3校，他地区5校）の進路説明会に参加し，中学生及び保護者に本校の紹介を行った。進路指導説明会では，3年生あるいは2年生全員，更には保護者に対してもPRできることから，効果が大であろうと判断し積極的に参加することに企画・運営会議で決定した。

平成26年度は，八戸地区のすべて中学校（25校）に対して，進路指導説明会への本校参加の希望の有無を確認し，希望のあった14中学校に出向き説明を行った。八戸地区以外で直接依頼のあった中学校は11校であった。合計25中学校，参加生徒数1564名以上であり，保護者（参加人数不明）の参加もあった。尚，平成25年度の参加生徒数は857名であった。

十和田工業高校から進路説明会参加の依頼があり，初めて工業高校での説明会に参加した。参加者数は編入希望生徒2名，教員1名で，平成28年度の編入試験を受験する予定の学生であった。

(2) 平成26年度に実施した広報活動

2-1 入学者選抜懇談会

4地区（青森地区：参加17校，弘前地区：16校，むつ地区：10校，八戸地区：45校）で開催し，合計88中学校の参加があった。平成25年度は89校であった。

2-2 中学校訪問

平成26年度の訪問中学校数は前期157校，後期43校（有力校再訪問）であった。平成25年度は，各々166校，56校であった。訪問中学校数が多いので，教員の負担軽減を考慮し訪問校を厳選することが必要である。

2-3 一日体験入学

7月26日（土），27日（日）に実施し，参加者数654名（125中学校）であった。平成25年度は642名（144校）で，中学校数は減少しているが参加者数はほぼ同数であった。

2-4 青森県県立高等学校入学者選抜要項説明会参加

6地区（東青，上北，三八，下北，西北，中南）の入試説明会に入試委員会委員を派遣し，本校の学校説明を行った。

(3) 平成27年度志願倍率

平成26，27年度の入試倍率は，以下の通りである。

	H27			H26		
	推薦	学力	合計	推薦	学力	合計
機械システム	1.4	2.1	1.6	1.2	2.5	1.7
電気情報	2.1	3.7	2.3	1.9	2.9	1.9
マテリアル	2.4	5.2	3.1	2.3	3.4	2.2

都市建築	1.7	3.1	2.0	1.4	1.8	1.4
全体	1.9	3.5	2.2	1.7	2.6	1.8

平成 27 年度入試倍率は、前年度に比較してすべてのコースでアップした。学科再編の効果であるのはもちろんであるが、進学率 100%, 就職率 100%, 専攻科からの大学院進学等々、学校 P R の成果もあったと思われる。

平成 27 年度入学者（159 名）に占める女子学生の割合は全体で 36%（57 名）、機械システム 16%（6 名）、電気情報 27%（11 名）、マテリアル 57%（20 名）、都市建築 40%（20 名）であった。平成 26 年度では入学者（177 名）に占める女子学生の割合は全体で 24%（42 名）、機械システム 2%（1 名）、電気情報 14%（6 名）、マテリアル 50%（24 名）、都市建築 25%（11 名）であった。全コースで女子入学者数がアップした。

平成 27 年度の受験女子生徒数は 99 名で全受験者（359 名）の 28% であった。平成 26 年度では、65 名で全受験者（286 名）の 23% であり、女子学生の受験者数は前年度比で 50% 増、男子受験者数は 20% 増であった。受験生激減期を迎えるに当たり、女子受験生をいかに増やすかが重要であると考えている。

2. 入学者選抜方法の検討

（1）専攻科入試について

1-1 推薦選抜及び学力選抜における英語評価について見直しを行い、TOEIC スコアが 600 点で満点となるように換算式を変更した。

1-2 学力選抜では課外活動を評価するために、面接シートを提出することにし、面接シートを参考に面接を行い、これまでの A, B, C, D 評価から 50 点満点で評価するように改めた。

（2）本科入試について

2-1 特別活動の記録（推薦点）の評価項目が複雑であったが、見直しを行い書式の簡略化を図った。

2-2 推薦選抜において、各面接室での評価平均が異なることから、これまでは各部屋での平均点が 13 点以上の差異がある場合に調整を行っていた。平成 27 年度入試から、平均点の差異の程度に関わらず各コースの面接室の平均点を合わせることに改めた。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	教務委員会	筆耕者	赤垣 友治
行動計画	1. 167 単位体制の維持・運用（継続） 2. 学科再編への対応 3. モデルコアカリキュラムへの対応		

1. 167 単位の体制の維持・運用（継続）

（1）特別学修の奨励

167 単位体制では、課題研究や資格取得等によって特別学修単位を取得し、修得単位数を増やすことが進級や卒業のためには必要である。平成 26 年度は、のべ 244 人の学生が特別学修・課題研究の単位を取得した（平成 25 年度：350 人，平成 24 年度：277 人，平成 22-23 年度：約 360 人）。校外実習単位認定者は 141 名で、4 年生の 87%である。

（2）成績状況

平成 26 年度は、167 単位体制に移行してから 6 年目であり、全学生に対して 167 単位制に基づいた進級・卒業要件で成績判定を行った。特別再試験受験者数は 193 名（平成 25 年度：146 名，平成 24 年度：125 名），留年者は 51 名（平成 25 年度：49 名，平成 24 年度は 22 名）となり、前年度を上回る悪い結果となった。留年者の内訳は、1 年（10 名），2 年（11 名），3 年（17 名），4 年（12 名），5 年（1 名）である。1～4 年生の学力向上策が必須である。

2. 学科再編への対応

平成 25 年は平成 27 年度から実施する 1 学科 4 コース制への学科再編に向けてカリキュラムの大幅な改訂を行った。平成 26 年度は、平成 27 年度からの 4 学期制実現に向けて、学修単位を約 60 単位導入し各コース、各学科、入学年度別にカリキュラムの再編を行った。また、進級要件，再試験を実施しない科目，審議を要する科目，特別学修，課題研究の変更を行った。

新 1 年生で新たに開講する科目のシラバス調整などを行った。また，学生便覧，シラバスの大幅な改訂を行ったが，4 学期制実施の決定が 2 月中旬であったため，4 月発行には間に合わなかった。

3. モデルコアカリキュラムへの対応

モデルコアカリキュラムと本校のカリキュラムの対応関係を調査したが，学科再編による新カリキュラムに対して新たに対応関係を調査する必要性がある。

また，機構からモデルコアカリキュラムに対する問題点調査があり，現在整理中である。（4 月末締切）

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	厚生補導委員会	筆耕者	中村 重人
行動計画	1.課外活動の活性化支援 2.学生指導・支援の充実 3.学校行事（学生会・高専祭実行委員会 等）の活性化 4.平成26年度東北地区高専体育大会（A 主管）開催		

I. 課外活動の活性化支援

クラブ、愛好会に、多くのコーチ、臨時指導教員を配置し、課外活動の支援を行った。なお、クラブ間での差が大きいことからクラブコーチに関する申し合わせにおいて、年間指導時間は最大でも300時間（今年度に限り350時間）とした。また、学生が学寮での夕食や入浴が決められた時間内に可能となるよう部活終了時間（体育館等利用時間）を10分繰り上げて19:20とした。今年度の課外活動の主な成果としては、ロボコン愛好会は、ロボットコンテスト2014 東北大会に出場し特別賞を受賞、自動車工学部では、本田宗一郎杯 Honda エコマイレージチャレンジ2014（グループⅢ）で第3位及び6位（高専では全国1位と3位）となった。運動部団体では高専体育大会東北地区大会において、女子バスケットボール部、男子バレーボール部が優勝し、全国大会で女子バスケットボール部が準優勝（3年連続）した。個人では全国大会で、柔道女子52kg級で優勝、ソフトテニス女子個人戦（ダブルス）で準優勝となった。

II. 学生指導・支援の充実

学生特別指導（学生主事訓告以上）の延べ人数は13人で、昨年度（18人）より減少したが、学寮内での飲酒が低学年だけでなく、分別のあるはずの高学年においても発生したことは問題である。学生主事注意以下の延べ人数は14人で、昨年度（12人）とほぼ同じであった。特に、1年生におけるインターネットでの誹謗中傷が多かった。

インターネット上での誹謗中傷、SNS等でのトラブル、依存による学業や成績への悪影響などへの懸念から、今年度11月より低学年生に対し、8:30から16:00まで携帯電話等の電源を切り、ロッカーの中にしまっておく等の指導を開始した。

厚生補導委員による毎月の登校および校内外の指導を行った。12月以降は昼休みの巡回で、低学年生の携帯電話等の使用違反で指導が多数に上った。学生の自覚がまだ十分ではないため、次年度も指導が必要である。

学生のための講演会等について、例年通り、1年生対象の「ケータイ安全教室」、「性に関する講演会」、2年生対象の「薬物乱用防止に関する講演会」、3年生対象の「交通安全講話講演会」、「消費者出前講座」が開催された。今年度はさらに、4年生対象に「マナー講座」、全女子学生および教職員対象に「女性のための防犯講座」を開催した。

III. 学校行事（学生会・高専祭実行委員会 等）の活性化

校内体育大会が6月19日、校内球技大会が10月9日に開催された。学生会行事委員会と連携して無事に大会を終了できた。高専祭は10月25、26日に「常笑嬉流～だって笑顔でいたいじゃない～」のテーマで行われ、学生たちは大いに楽しんだようである。学生会執行部によるハロウィンやクリスマスのイベントが行われ、特に年末のイルミネーションは校門脇のフェンスにまで広がるなど昨年度よりも規模が大きくなった。

IV. 平成 26 年度東北地区高専体育大会（A 主管）開催

7 月 5, 6 日に、陸上競技、バスケットボール、卓球、剣道、テニス、ハンドボール、10 月 17～21 日に、ラグビーフットボールの各競技が本校主管で開催された。いずれも準備、開催実施とも滞りなく成功裡に終えることができた。各関係協会、関係の高校の部員・顧問の方々には感謝申し上げたい。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	寮務委員会	筆耕者	河村 信治
行動計画	I. 新しい北辰寮マスタープランの検討 II. 施設・住環境の改善 III. 運営・管理業務の見直し		

I. 新しい北辰寮マスタープランの検討

当初検討したいと考えていた北辰寮の未来像以前に、学校全体として H27 年度より取り組むこととなった 4 学期制への対応、さらに見込まれる教職員定数削減への対応等々、考慮しなければならない諸条件が想定以上であり、具体的なマスタープランの検討にまだ至っていない。ここでは最近の北辰寮の課題をいくらかでも整理しておくにとどめる。

1. 寮則違反・問題行動等から見られる寮生のモラルおよび寮風について

H26 年度早々、盗難が疑われる現金紛失事件が発生した。近接する居室の複数の寮生の現金が、一部は施錠してあった引出しから開錠されて抜き取られた形跡があった。八戸警察に通報し、盗難事件として 2 か月ほど捜査が続けられたが、犯人認定には至らなかった。

また、12 月末には寮内で幹部的立場にある高学年生が総代部屋において集団飲酒し、同時に低学年棟でも下級生が集団飲酒しているのが発見された。寮生を代表する総代が 2 年連続で総代部屋での飲酒で指導される事態となった。

H26 年度前期中間試験以降、低学年寮生とくに 1、2 年生の学業成績が、通学生より下回るという教務報告があり、これがきっかけとなって、学生のスマートフォン依存傾向が問題となり、学校内および寮での携帯電話等の使用規制につながった。

ほかさまざまな問題から見えてきた問題として、多様な他者とのリアルな共同生活の中で経験され体得されるべき、相互の尊重、配慮、調整、といった対人関係を避け、仲良しグループ内のみで楽しく過ごせば良しとする姿勢が目立ち、全体として公共的なモラルが低下している状況がある。

2. 管理体制の省力化の必要

教職員の業務軽減、今後さらに進むと予想される定数削減および予算削減への対応として、管理業務の外部委託化および省力化の方向は免れない。このため、施設設備面での安全対策、防犯対策を強化させ、寮内のモラルを引き上げる必要がある。

3. 寮生によるセルフガバナンス向上の必要

北辰寮では、過去の先輩の後輩に対する過剰指導の反省から、長年寮務委員と宿日直による教員ベースの指導体制を維持してきた。しかし 2. と関連して、今日あらためて新しいカタチでの寮生による自主的な管理を教育寮としての是として方法の転換をはかるべき時機になったと考える。

II. 施設・住環境の改善

1. 高学年棟（E 棟）水回りの改修

老朽化の著しかったE棟の水回り（トイレ、洗面所、補食室、洗濯室）について、後期学期中に順次フロア毎改修工事が進められ、住居棟の衛生環境が改善された。この結果、あと古いトイレ施設が残るのはW棟西側のみとなった。

2. 厨房施設の改修

老朽化の著しかった食堂厨房について、水回りはじめ厨房内全体の衛生環境改善のための改修工事が、夏季休業期間中に実施された。これにより厨房施設の衛生条件は大きく改善された。

厨房を含む食堂全体の設計が古く、給食配給の導線等に改善の余地があり、今後の課題といえる。

3. 女子フロア増床と関連設備の整備

H26年度初めより、従来のS棟に加え、B棟2、3階を女子フロアとして使用開始し、女子定員を計84名（+30名）とした。またB棟1階は、短期長期の女子留学生フロアとして供することにし、B棟全体を女子棟化した。これに伴い、セキュリティ上の観点から以下の追加整備を行った。

- ・ B棟玄関の電子オートロック化。このために玄関ドア建具全体の付け替え改修を行った。
- ・ B棟1階全居室の窓に、防犯用の木製格子窓枠を取り付けた。

一方前年まで低学年フロアであったN棟1階を高学年フロアとして使用し、高学年フロアはE棟とN棟1階で併せて定員86人（-24人）、低学年フロアの定員は303人（-12人）となった。さらに今年度以降の専攻科生の入寮を認めないことにし、H26年度の入寮選考における男女の入寮条件の格差はほぼ解消された。

4. 大浴場に関して

古いボイラーの給湯能力が限界で、とくに冬休み明けの厳冬期に、風呂やシャワーが冷たいという寮生からの苦情が例年多くあった。前年度中も何度か施設・調達係を通じて、業者による点検・修理を実施したが、あまり根本的な解決は見られなかった。この対策として、冬季休業期間中に、大浴場にオイルヒーターを設置、点灯し、浴室全体の予熱を続けた。さらに脱衣所の暖房に配慮することで、湯上りの冷えや体感的な寒さに対症しようとした。さいわい今冬の寒さがあまり厳しくなかったことにも助けられ、今年度寮生からの苦情はほとんどなかった。しかしながら、給湯設備の根本的な改善が望まれる課題である。

5. 携帯電話等ロッカーの設置

低学年棟・女子棟の全フロアに、携帯電話等専用ロッカーを設置し、学習時間中は携帯電話等を仕舞って施錠するルールが施行された。

6. その他

さらなるセキュリティ強化の必要から、寮棟各フロアへの防犯カメラの設置を検討している。また老朽化（未改修）が著しいW棟西側の水回り、浴場の給湯施設等については、今後も予算要求を続けていく。

Ⅲ. 運営・管理業務の見直し

1. 管理業務の外部委託化の進展

H24～25 年度、休日の教員日直を八戸高専旧教職員の親睦会である白樺会のメンバーに依頼（非常勤職員として雇用）。また H25 年度休日の事務職員宿直を警備会社に委託した。H26 年度にはさらに外部委託化を進め、休日の教員日直と職員宿直、さらに新たに職員日直と休前日の教員宿直（一人分）を加えて業務仕様を作成し、入札で選定した業者に業務委託した。これまでの職員宿日直業務を「宿日直業務」、教員の宿日直業務を「宿日直指導業務」として、とくに「～指導業務」担当者は、教員経験かそれに相当する資格または経歴を有する方として選定され、現在 4 名の担当者が交代で両業務に当たっている。また非常勤の寮母（教員資格保有者）を雇用し、女子棟の朝巡回等の指導業務を依頼している。さらに再雇用教員による朝巡回・昼指導業務の一部サポートも依頼している。教職員の業務軽減のため、今後も学寮の秩序維持と管理業務に混乱をきたさないよう慎重に管理業務の外部委託化と省力化を進めていく方針である。

2. 携帯電話・スマホ等の使用規制のための新ルール

厚生補導委員会による日中学校内での使用規制と連携して、以下のルールを定めた。

●学習時間（20:20～22:50）

- ・学習時間中は携帯電話等をロッカーにしまい、その保持・使用を禁止する。現行ルールに従い、ネットワークへ接続する機器の使用は認めない。（現行規則「パソコン・家庭用ゲーム機等の不正使用」指導点数 1～3 点、「寮生活の手引き」23 頁）

- ・急病・ケガ等による緊急連絡については、宿直の許可を得て使用する。
- ・学習時間中は授業中と同様の扱いで、保護者からの電話連絡もこの時間帯は原則として避けていただくようにする。

●消灯時間以降（23:00～）

- ・緊急の場合を除き、使用を禁止する。（消灯後の携帯電話の使用に関する現行ルール通り、「寮生活の手引き」29 頁）

- ・自己管理を徹底する。
- ・他者への迷惑（電話の話し声、時間外のメール等返信の要求など）や、本人の生活習慣への悪影響（寝不足による寝坊、成績低迷など）が顕在化した場合は、相応の指導対象（「その他の不正・迷惑行為等」指導点数 0～15 点、「寮生活の手引き」23 頁）とする。また保護者と相談の上、携帯電話等の寮内持込みの制限を検討する。

※高学年寮生（男女）については上記指導の対象に含めないが、使用方法に問題が認められる場合（とくに低学年生と同室の高学年女子寮生は、学習時間中の居室内での使用は禁止）には、寮点や使用制限等の指導対象とする。

3. H27 年度からの 4 学期制導入に向けた運営・管理業務の検討

とくに合宿での北辰寮使用ルール、および秋学期の入寮条件と管理体制について、検討中。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	専攻科委員会	筆耕者	工藤 憲昌
行動計画	1.新たな審査方式における指導体制の整備 2.国際交流担当との連携による留学支援体制の整備（継続） 3.入学者の拡大と大学院進学への奨励		

1. 新たな審査方式における指導体制の整備

これまで、学生が学士申請書類を大学評価・学位授与機構に申請する前に指導教員等による学修成果レポートのチェックと教務担当者による単位修得状況のチェックを受けてから必要な修正を行って申請を行ってきた。申請の簡素化の観点から申請の手続きに関する説明と学修成果レポートの指導にとどめ、単位修得状況は学生自身による電子申請に移行することを計画し、2年前から準備を進めてきた。今年度も電子申請の手順を学生に周知させることに重きをおいた。具体的には、電子申請について事前説明会を行ったうえで、学生に Web 上で電子申請に必要な入力を行ってもらい申請内容が要件を満たしているか学生自身に確認してもらった。教務担当者による Web 出力のチェックを受けた後、学生が最終的な電子申請を行うよう指導した。誤りがなかったため、次年度以降、学生自身による電子申請に大きな問題はないと評価している。

また、2 学年の「特別研究Ⅱ」を学修総まとめ科目とし、総表（大まかなシラバスに相当）、個表（詳細なシラバスに相当）を作成し、大学評価・学位授与機構に提出した。作成に当たっては、可能な限り類似した研究テーマの教員同士をグルーピングし、学生に提示できるテーマを広くできるよう配慮した。今後は、学修総まとめ科目の履修計画作成のマニュアル等を作成する予定である。

2. 国際交流担当との連携による留学支援体制の整備（継続）

約3ヶ月のフランス IUT へのインターンシップなど学生の海外交流が活発化している。平成 23、24 年度に学生によっては派遣先における学習状況の把握と成績評価に問題がみられるようになり、専攻科と国際交流担当者との連携に努めた。主な取り組みとしては、以下のとおりである。

- ①受け入れ先での派遣テーマのマッチングをよくするため、希望テーマや卒業研究のテーマを含む CV（履歴書）を早期に提出するように指導したこと。
- ②派遣についての事前説明会を開催し、派遣後は週報を派遣先のスーパーバイザに確認してもらったうえで、本校の指導教員に送付するようにしたこと。
- ③派遣先の要望から派遣基準を TOEIC500 点以上（H26 年度は暫定的に 450 点以上）とすると共に、TOEIC IP テストの開催等、希望学生への支援を行った。

3. 入学者の拡大と大学院進学への奨励（継続）

岡田校長のリーダーシップのもと、推薦入学の総枠は変えないものの推薦選抜の基準の緩和、入学確約書の提出期限の12月へのシフトにより増募に努めた。また、例年進路の選択肢を増やす目的で、豊橋および長岡の両技科大大学院、先端科学技術大学院の説明会を行っていたが、今年度はこの他に、東北大大学院（工学研究科、環境科学研究科等）、東工大大学院（総合理工学専攻）の説明会を開催した。早大の IPS 専攻とは、推薦選抜に関する提携を交わした。

岡田校長による専攻科生に対する具体例に富んだキャリア指導もなされた結果、例年4名ほどであ

った大学院進学者数が、H25、H26年度は有力大学の大学院をかなり多く含み、それぞれ11名、9名となった。今後は、大学院へのインターンシップ等も開拓していきたい。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	施設整備計画委員会	筆耕者	赤垣 友治
行動計画	1. 施設の点検整備（継続）		

1. 施設の点検整備（継続）

- （1）施設の実態調査を4月に実施済みである。老朽・危険箇所を早期に把握するため構内巡視等によるプリメンテナンスに努めている。
- （2）水質管理（廃水処理施設の点検を含む）、電気工作物、昇降機、防災設備については点検整備を外部委託することで効率化を図っている。
- （3）PCB廃棄物について、PCB含有蛍光灯安定器、微量PCB含有トランス・コンデンサ等の定期点検を行い、安全確保に努めている。
- （4）かねて学生・教職員からの要望があった合併教室へのエアコン整備を行った。夏季の快適な学習環境だけでなく、冬季の暖房用ボイラー設備の運転回数低減にもつながり省エネルギーに寄与している。
- （5）校舎各室のロスナイ及びエアコンのフィルター清掃整備を夏季休業期間中に実施した。今後は設備の稼働状況に応じて計画的に整備を行えるよう実施方法の検討を進める。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	紀要編集委員会	筆耕者	菅原 隆
行動計画	1. 紀要投稿数の増募推進		

紀要の投稿数が、年度によっては少なくなることも予想され、数年前から専門学科は3編以上、総合科学科は5編以上としている。

教員会議や紀要編集委員会で各教職員へ投稿するように呼びかけ、できるだけ多くの論文が紀要に掲載されるようお願いしていく事が増募推進になる。

過去の紀要に関するデータを一覧として掲載するので、参照願います。

八戸工業高等専門学校紀要の歴史

紀要号数	西暦(年)	年号(年)	印刷会社	研究論文数						発行年月日	特集号等	編集委員長
				M	E	C	Z	G	合計			
第1号	1966	昭和41年	笹氣出版印刷(仙台市)	1	2	2	0	7	12	S41.12.20	初代校長:小L5:L32出義雄先生「序」	委員のみ:鈴木幸三、高山宗三、佐々木庄一、山谷勇平
第2号	1967	昭和42年	笹氣出版印刷	0	3	1	0	6	10	S42.12.31		小出義雄校長
第3号	1968	昭和43年	笹氣出版印刷	0	2	2	0	8	12	S43.12.20		小出義雄校長
第4号	1969	昭和44年	笹氣出版印刷	2	3	3	2	9	19	S44.12.20		図書委員長:成田敏行
第5号	1970	昭和45年	笹氣出版印刷	4	3	4	2	5	18	S45.12.20		図書委員長:阿部正平
第6号	1971	昭和46年	笹氣出版印刷	4	3	3	1	7	18	S46.12.20		図書委員長:八田秀三郎
第7号	1972	昭和47年	笹氣出版印刷	2	3	2	1	9	17	S47.12.27		紀要編集委員長:鈴木幸三
第8号	1973	昭和48年	笹氣出版印刷	4	2	2	9	8	25	S48.10.1	創立10周年記念	教務主事:鈴木幸三
第9号	1974	昭和49年	笹氣出版印刷	2	2	1	1	9	15	S50.1.10		
第10号	1975	昭和50年	笹氣出版印刷	2	3	3	2	9	19	S50.12.25		同:八田秀三郎
第11号	1976	昭和51年	笹氣出版印刷	2	3	3	4	10	22	S51.12.22		
第12号	1977	昭和52年	笹氣出版印刷	7	3	1	4	5	20	S52.12.27		同:四戸俊一
第13号	1978	昭和53年	笹氣出版印刷	6	4	2	3	6	21	S53.12.27		
第14号	1979	昭和54年	川辺印刷(仙台市)	4	5	2	3	11	25	S54.12.30		
第15号	1980	昭和55年	笹氣出版印刷	7	4	1	3	4	19	S56.1.30	S55.10.25 別:堀田報誠先生、玉手 統校長 1編投稿	
第16号	1981	昭和56年	笹氣出版印刷	9	7	1	7	9	33	S57.1.20	玉手 統校長 1編投稿	
第17号	1982	昭和57年	笹氣出版印刷	6	4	0	3	5	18	S57.12.20	玉手 統校長 1編投稿	
第18号	1983	昭和58年	笹氣出版印刷	7	7	2	4	11	31	S58.12.20	創立20周年記念、玉手 統校長 1編投稿	同:佐々木庄一
第19号	1984	昭和59年	笹氣出版印刷	6	7	1	4	9	27	S59.12.20	玉手 統校長 1編投稿	
第20号	1985	昭和60年	笹氣出版印刷	4	5	4	5	14	32	S60.12.20	玉手 統校長 1編投稿	
第21号	1986	昭和61年	笹氣出版印刷	6	4	2	4	10	26	S61.12.20	玉手 統校長 1編投稿	
第22号	1987	昭和62年	笹氣出版印刷	4	6	2	3	10	25	S62.12.20	玉手 統校長 1編投稿	
第23号	1988	昭和63年	笹氣出版印刷	3	6	2	6	9	26	S63.12.20		同:鈴木幸三
第24号	1989	平成1年	笹氣出版印刷	1	3	0	0	10	14	H1.12.20		同:三ヶ田賢次
第25号	1990	平成2年	笹氣出版印刷	2	4	4	3	7	20	H2.12.20		
第26号	1991	平成3年	笹氣出版印刷	3	5	1	7	4	20	H3.12.20		
第27号	1992	平成4年	笹氣出版印刷	0	2	1	6	6	15	H4.12.20	教育実践特集号:論文15、報告5	同:根来健夫
第28号	1993	平成5年	笹氣出版印刷	1	2	1	2	4	10	H5.12.20	創立30周年:報告6編	
第29号	1994	平成6年	笹氣出版印刷	0	0	0	1	6	7	H6.12.20		
第30号	1995	平成7年	笹氣出版印刷	2	8	1	2	7	20	H7.12.20		同:金沢行哉
第31号	1996	平成8年	笹氣出版印刷	1	3	1	2	7	14	H8.12.20		

八戸工業高等専門学校紀要の歴史

[illegible]

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	環境マネジメント委員会	筆耕者	工藤 隆男
行動計画	環境負荷の少ないキャンパスづくり（継続）		

環境負荷の少ないキャンパスづくりの取り組みの一環として、光熱水料節約の啓蒙を兼ね、電気、水道、プロパンガスそしてA重油についての使用量と金額を毎月の教員会議で報告することを継続している。これらの使用量と温度の関係を知る目的で月別平均気温も報告している。26年度の電力使用量については毎月ほぼ平年並みであったにもかかわらず毎月の使用料金は平年比を上回り、年間でおおよそ30%増加になった。この原因は電気料金が大幅増になったことによるものと思われる。

省エネルギー対策への取組として、階段教室のエアコン工事を夏休み中に行い、高効率のエアコンを設置した。また5月に完成した図書館の改修工事に当たっては、高断熱の外壁としたり高効率のエアコンを導入するなどした。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	国際交流委員会	筆耕者	阿部 恵
行動計画	1. 本科1学年から専攻科まで一貫した国際交流推進 2. 情報発信の推進 3. 短期海外研修の引率教員用マニュアル作成 4. 教職員の国際交流推進		

1. 本科1学年から専攻科まで一貫した国際交流推進

- (1) 本科1年生から参加可能な海外研修を継続して実施し、本科1年生から4年生33名が2週間のテーマセクポリテクニック研修に参加した。本科5年生と専攻科生対象のフランス研修が1ヶ月～3ヶ月の期間で実施された。
- (2) 本科低学年生を対象としたエドグレン高校との国際キャンプや高専祭での交流が継続的に行われた。
- (3) 機械工学科生の中国への派遣や建設環境工学科（平成26年度の学科名）の韓国からの教員・学生受入が実施された。
- (4) 本校主催の海外派遣プログラム以外にも、高専機構主催のテーマセク技術英語研修や海外インターンシップ研修に学生たちが積極的に参加した。
- (5) 高専機構主催のCool Japan Seminar 2015（八戸高専担当）に向けて、運営・企画などの準備に本科2年生から専攻科2年生の16名が携わった。

2. 情報発信の推進

- (1) 国際交流活動の一部をホームページにアップした。今後、定期的なアップデートが課題となっている。
- (2) キャンパスの建物内の英語表示がほぼ終了した。今後は建物外の英語表示が課題となっている。
- (3) 寮の規則の英語マニュアルを作成した。短期留学生が入寮時に確認をすることで、安全面や規則面での改善が期待されている。

3. 短期海外研修の引率教員用マニュアル作成

毎年多くの学生が短期海外研修に参加していることから、事前研修・事後研修も含め引率教員用マニュアルを作成した。今後、使用していただいた教職員からフィードバックをいただきながら改善していく予定である。

4. 教職員の国際交流推進

- (1) テマセクポリテクニックから教員を招聘して、教職員対象にCross-cultural Communicationのワークショップを実施した。
- (2) シンガポールポリテクニックから教員を招聘して、アクティブラーニングのデモンストレーションを実施した。
- (3) テマセクポリテクニックで、本校の教員が日本文化に関する講義、バイオに関する講義などを実施した。
- (4) テマセクポリテクニックに職員3名が派遣され、シンガポールの教育事情などを調査した。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	知的財産委員会	筆耕者	矢口 淳一
行動計画	1. 知財啓発の為の知財セミナー等の開催（継続）		

1. 講演会・技術指導

（独）工業所有権・情報研修館「平成26年度知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」（導入・定着型）に採択され、学生及び教職員の知的財産思考の育成を図るため、地元弁理士を講師に招き、学生、教職員を対象に講演会、技術指導を実施した。

（1）講演会

①日時：平成26年7月17日（木） 14:30～15:30

会 場：八戸高専 大会議室

演 題：「知的財産の制度と利点」

講 師：富沢特許事務所 弁理士 富沢知成

参加者：学生81名、教職員4名 合計85名

②日 時：平成26年9月25日（木） 13:50～14:50

会 場：八戸高専 大会議室

演 題：「知的財産権の検索方法と事例紹介」

講 師：富沢特許事務所 弁理士 富沢知成

参加者：学生80名、教職員5名 合計85名

（2）技術指導

日 時：平成26年12月8日（月） 14:30～16:30

会 場：八戸高専 電気情報工学コース棟4階 学科横断フレックス

内 容：「創生実験」を通じて得た学生のアイディアの技術相談

講 師：富沢特許事務所 弁理士 富沢知成

参加者：学生12名、教職員2名 合計14名

2. 知的財産関係会議への出席

（1）平成26年度知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 地域別研究協議会
～将来の知財創出・活用を担う人材育成のために～

日 時：平成26年8月4日（月）12:30～16:30

会 場：山形県立上山明新館高等学校

参加者：産業システム工学科（電気情報工学コース） 工藤憲昌教授

（2）平成26年度第1回 青森県知的財産連携会議

主 催：青森県商工労働部・一般社団法人青森県発明協会

日 時：平成26年7月3日（木）13:30～15:30

会 場：青森国際ホテル5階「芙蓉の間」

出席者：齊藤 貴之 地域テクノ副センター長

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	広報委員会	筆耕者	菅原 隆
行動計画	1. 八戸高専ホームページの充実 2. 学校案内等の内容充実		

1. 八戸高専 HP の作成について

ホームページは学校の顔であり、本校学生、学生保護者、卒業生、中学生、高校生、大学生、求人関係会社、地域社会の人々など多くの人の目に留まることから、重要な情報発信源であり、内容の充実が望まれるものである。今までは作成内容に関し各学科・部所に任せて作成してきた。

平成27年度からは1学科4コース制に改組となることから、デザイン及び更新を業者に依頼して作成することにした。学校案内等の印刷物とHPのデザインのイメージを統一させる事とし、年度内の完成を目指して進行中である。

2. 学校案内等の内容充実

下記について検討し、各種案内冊子などを業者に依頼して作成する。

(1) 学科改組の案内パンフレットについて

キャンパスガイドに折り込むA4両面1枚、またはA3両面1枚のパンフレットを作成する。新学科の各コースの概要、就職先・進学先のデータを掲載する。各コースの概要を中学生に分かりやすく伝えるための紹介文の作成をする。デザインについては、企画競争により、デザイン業者を決定する。その際、著作権を本校で持つことを契約の条件とする。

(2) 表紙のイメージ学生について

次年度のイメージ学生は吹奏楽部（顧問：野中准教授）に決定した。男女3人ずつ合計6人を選び、ポスターおよび学校案内の表紙等に使用する。

(3) 広報活動における学生の写真等の使用許諾について

学生の写真を使用する場合に必要な許諾を、入学時などに一括してとることが提案された。他高専の例を参考として、承諾書を作成して行う。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	総合情報センター委員会	筆耕者	菅原 隆・細越 淳一
行動計画	1. 情報セキュリティ対策の充実(継続) 2. 学内 LAN の整備		

1. 情報セキュリティ対策の充実(継続)

(1)情報セキュリティトップセミナー

管理職向け「情報セキュリティトップセミナー」がビデオ会議システムを用いて実施された。これにより、情報セキュリティの重要性への理解がいつそう進み、強固なセキュリティ対策のさらなる推進が期待されている。

(2)全教職員向け e ラーニング

NII（国立情報学研究所）の協力により、全教職員向け e ラーニング「りんりん姫」が実施された。当初9月末の〆切であったが、システムの不調や多忙な教員のために1ヶ月延長された。〆切を過ぎても受講が完了していない教職員には督促が行われ最終的に全員の受講が完了した。

来年度は日本データパシフィック社の「教職員のための情報倫理とセキュリティ」を用いての e ラーニングが実施される計画である。

2. 学内 LAN の整備

(1)教員会議のペーパーレス化

事務労力の削減と紙資源の節約を目指して、教員会議資料を pdf 化して配布し、それを会議参加者はノート PC を用いて閲覧するシステムを構築した。

成績資料は、コピー付加の特殊な USB メモリに入れて配布し会議終了後回収しており重要な情報が漏洩する危険性を減少させている。

(2)学生用 Wi-Fi スポットの新設

図書館交流室と学寮小食堂に、学生が所有する情報端末が無線で Wi-Fi 接続できる場所を設け、学生の利便性を向上させた。

この無線 LAN はセキュリティの脅威にならないよう、校内 LAN には接続せずにインターネットのみが利用できる設定にしている。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	図書館委員会	筆耕者	菅原 隆
行動計画	1. 改修後の図書館の活動について 2. 読書習慣を身につけさせるための各種行事の充実(継続)		

平成26年度中に図書館が改修され、平成27年4月より新装となった図書館がオープンした。開放的な交流室が設けられたことにより、多くの学生等が図書館を利用した。過去5年間の利用者数と貸出冊数を別表に載せてある。

図書館改修後は、図書の検索、閲覧、自己学習などの通常の活用のほか、交流室を利用したグループ学習、メンター・メンティーでの学習、資格試験コーナーの利用、多読本の充実による読者増加、IFC等の課外活動、ビブリオバトル会場、授業での利用等など多くの利用があった。学校のホームページでの図書館紹介やチラシなどによる案内、学校放送でのアナウンス等、クラス担任からの連絡により、図書館の活用を周知した。その効果もあり改修後の図書館を利用して、上記のような多くの活動が展開された。

図書館の利用者数についてみると、平成22年度から24年度は4万7千人から4万9千人程度であるが、(平成25年度は図書館改修により閉館したため、ここでは除く)平成26年度は5万千人と約1万人ほど利用者数が増加している。今後も利用者数だけでなく貸出本の数、内容などの統計を取りながら図書館活動に繋げていく事になる。

読書習慣を身につけさせるための各種行事は、例年行われている読書マラソン・ブックハンティングなどがある。今年度は、ビブリオバトルを計画し3回実施した。1回目は新聞社や地元の大学からの参観者もあり盛況であった。教員によるブックレビューや学生図書委員会によるニューズレターの作成を行って新書や選書の紹介を行い、本に親しむ習慣をつけるような工夫を行っている。今後も継続して充実を図っていくように計画をしていく。

平成22-26年度別図書館利用状況

	平成22年度 利用者数等		開館 日数	平成23年度 利用者数等		開館 日数	平成24年度 利用者数等		開館 日数	平成25年度 利用者数等		開館 日数	平成26年度 利用者数等		開館 日数
	利用 者数	貸出 冊数		利用 者数	貸出 冊数		利用 者数	貸出 冊数		利用 者数	貸出 冊数		利用 者数	貸出 冊数	
4	4,380	836	24	3,135	741	23	3,598	729	23	3,337	670	24	1,527	307	7
5	5,585	627	24	4,072	981	20	4,120	905	22	3,960	947	23	6,620	723	25
6	4,525	1,026	26	6,047	945	28	6,352	777	28	5,984	680	27	5,059	839	26
7	3,384	825	23	3,507	1,037	23	3,602	993	23	3,662	1,218	24	4,170	804	23
8	1,474	275	18	1,571	259	20	1,480	305	21	改修による臨時閉館		0	1,299	170	16
9	5,022	713	26	5,630	618	27	4,217	521	26	1,815	453	19	7,154	502	27
10	3,657	1,066	25	3,759	779	25	4,153	914	26	1,911	563	22	4,358	766	26
11	4,882	813	25	5,356	828	25	5,915	817	26	1,859	546	20	6,333	629	26
12	3,679	763	23	3,986	820	23	3,818	867	22	1,631	647	17	4,479	1,352	21
1	3,876	840	22	4,011	737	21	4,483	719	21	1,741	560	18	6,170	1,076	23
2	5,000	573	26	6,427	736	27	5,282	536	26	1,869	657	17	6,569	749	26
3	1,863	213	24	1,903	273	24	297	210	23	改修による臨時閉館		0	3,367	210	24
計	47,327	8,570	286	49,404	8,754	286	47,317	8,293	287	27,769	6,941	211	57,105	8,127	270

図書館改修により、開館
は4月下旬からなので利
用者数が少ない。

ー平成26年度 行動計画取組結果報告書ー

委員会等名称	地域テクノセンター委員会	筆耕者	矢口 淳一
行動計画	1. 産学官金民連携の推進（継続） 2. 共同研究の推進（継続） 3. 地域への貢献（継続）		

1. 産学官金民連携の推進

1. 1) 官との連携事業の実施

(1) 平成26年度岩手県北ものづくり産業ネットワーク 総会及び講演会

主 催：岩手県北ものづくり産業ネットワーク

日 時：平成26年6月11日(水) 14:00～16:00

会 場：二戸地区合同庁舎1階大会議室

参加者：齊藤 貴之 地域テクノ副センター長

(2) (地独) 青森県産業技術センター八戸地域研究所協議会 第36回定時総会

日 時：平成26年7月8日(火) 17:00～

会 場：八戸プラザホテル2階「プラザホール」

参加者：古谷 一幸 地域テクノ副センター長

(3) 日本が誇るマテリアルの世界「材料フェスタ in 仙台」

主 催：(独) 産業技術総合研究所、東北大学、(独) 物質・材料研究機構

日 時：平成26年7月28日(月)～29日(火)

会 場：仙台国際センター

参加者：物質工学科 杉山 和夫 教授、松本 克才 教授、長谷川 章 教授

ポスター展示、発表：学生 4名

(4) 平成26年度第1回青森県よろず支援拠点連携会議及び地域プラットフォーム連携会議

主 催：(公財) 21 あおもり産業総合支援センター

日 時：平成26年8月22日(金) 13:30～15:00

会 場：ラ・プラス青い森 4階「ル・クリスタル」

参加者：佐藤 勝俊 産学交流・キャリア教育支援コーディネータ

(5) イノベーション・ジャパン2014 ～大学見本市&ビジネスマッチング～

主 催：(独) 科学技術振興機構(JST)

(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

日 時：平成26年9月11日(木)～12日(金)

会 場：東京ビックサイト

出展者：物質工学科 山本 歩 助教

出展タイトル：八戸高専桜花酵母を利用した極甘発泡ライスワインの産学官共同開発

(6) ものづくり産業パートナーフォーラム in あおもり

主 催：イノベーション・ネットワークあおもり

日 時：平成 26 年 10 月 22 日（水）12：00～18：00

会 場：ホテル青森

参加者：機械工学科 沢村 教授、佐藤 産学交流・キャリア教育支援コーディネータ

(7) 2014年度東北地域リエゾンネットワーク会議

主 催：経済産業省東北経済産業局

日 時：平成 26 年 7 月 29 日（火）14：00～17：30

場 所：TKPカンファレンスセンター

出席者：古谷 一幸 地域テクノ副センター長

(8) 産学官連携フェア2014Dec. みやぎ

主 催：(公財) みやぎ産業振興機構

日 時：平成 26 年 12 月 4 日（水）10：30～17：00

会 場：仙台国際センター

出展者：電気情報工学科 釜谷 教授、機械・電気システム工学専攻 2 年 小林健太

(9) 平成26年度 知的財産連携会議

主 催：青森県商工労働部・一般社団法人青森県発明協会

① 第1回

日 時：平成 26 年 7 月 3 日（木）13：30～15：30

会 場：青森国際ホテル5階「芙蓉の間」

出席者：齊藤 貴之 地域テクノ副センター長

② 第2回

日 時：平成 27 年 2 月 16 日（月）10：30～12：00

会 場：青森国際ホテル

出席者：欠席

(10) 三八地域ものづくり産業フェア

主 催：青森県三八地域県民局

日 時：平成 27 年 2 月 27 日（金）12：00～19：00

会 場：八戸プラザホテル プラザアーバンホール

ブース出展及びショートプレゼン：機械工学科 沢村 利洋 教授

(11) Life Innovation Forum 2015 (AOMORI)

日 時：平成 27 年 3 月 19 日（木）14：00～17：10

場 所：青森国際ホテル「萬葉の間（3F）」

主 催：青森県、(公財) 21 あおもり産業総合支援センター

概 要：受賞講演・基調講演・特別講演

パネル展示：機械工学科 沢村 利洋 教授、電気情報工学科 工藤 隆男 教授

出席者：矢口 淳一 地域テクノセンター長

(12) イノベーション・ネットワークあおもり平成26年度タスクフォース会議

主 催：青森県

日 時：

- | | | | |
|--------|----------------|-------------|-------------------|
| ① 第1回 | 平成26年4月11日(金) | 14:00～17:00 | 矢口センター長 |
| ② 第2回 | 平成26年5月15日(木) | 14:00～16:00 | 齊藤副センター長 |
| ③ 第3回 | 平成26年6月10日(火) | 14:00～16:00 | 矢口センター長 |
| ④ 第4回 | 平成26年7月10日(木) | 14:00～17:00 | 〃 |
| ⑤ 第5回 | 平成26年8月22日(金) | 14:00～17:00 | 〃 |
| ⑥ 第6回 | 平成26年9月10日(水) | 14:00～17:00 | 齊藤副センター長 |
| ⑦ 第7回 | 平成26年10月10日(金) | 14:00～17:00 | 古谷副センター長 |
| ⑧ 第8回 | 平成26年11月12日(水) | 14:00～16:00 | 欠席 |
| ⑨ 第9回 | 平成26年12月12日(金) | 14:00～16:30 | 佐藤コーディネータ |
| ⑩ 第10回 | 平成27年1月15日(木) | 14:00～15:30 | 齊藤副センター長 |
| ⑪ 第11回 | 平成27年2月16日(月) | 14:00～17:00 | 欠席 |
| ⑫ 第12回 | 平成27年3月9日(月) | 14:00～15:20 | 矢口センター長・佐藤コーディネータ |

会 場：青森県庁、八戸工業大学

1. 2) 民との連携事業の実施

(1) 平成26年度八戸機械工業会通常総会懇親会

主 催：八戸機械工業会

日 時：平成26年7月1日(火) 17:30～

会 場：八戸グランドホテル

参加者：矢口 淳一 地域テクノセンター長

(2) 第12回全国高専テクノフォーラム

主 催：独立行政法人国立高等専門学校機構（主管校：苫小牧高専）

日 時：平成26年8月21日(木)

会 場：札幌コンベンションセンター

発表・展示：機械工学科 森 准教授、物質工学科 山本 助教

出席者：岡田 校長、矢口 地域テクノセンター長、佃 事務部長、橋本 総務課長

橋場 地域連携係長、高橋 地域連携係員

(3) 東北工学教育協会高専部会主催「産学交流の日」

主 催：東北工学教育協会高専部会

主管校：仙台高等専門学校

日 時：平成26年11月13日(木) 13:30～17:15

会 場：ホテル JAL シティ仙台 2階 会議室 ローズ

参加者：矢口 地域テクノセンター長、橋場 地域連携係長

(4)「研究室めぐり」の実施

主 催：(公財)八戸地域高度技術振興センター

後 援：八戸高専産業技術振興会

日 時：平成 26 年 12 月 2 日（火）13：30～16：30

参加者：教職員 17 名、学外参加者 20 名

表 1 研究事例紹介者および研究題目

No.	研究事例紹介者	発表課題	見学場所
1	機械工学科 助教 白田 聡	重力補償機構を搭載したヒューマノイドロボットの開発	知能機械実験室 (機械工学科棟 2 階)
2	電気情報工学科 准教授 中村 嘉孝	パーソナル・ヘルスケアのための生体情報センシング用高感度センサー材料の開発	材料準備室 (電気情報工学科棟 2 階)
3	物質工学科 准教授 佐藤久美子	ポリオキサゾリンを用いた機能性高分子材料および有機／無機複合材料の開発	高分子化学実験室 (物質工学科棟 2 階) 核磁気共鳴室 (地域テクノセンター 2 階)
4	建設環境工学科 准教授 馬渡 龍	八戸高専・低燃費住宅について	CAD 室 (建設環境工学科棟 2 階)

(5) 東北放射光施設（S L i T - J）八戸シンポジウム

主 催：東北放射光施設推進協議会、東北放射光施設推進会議、八戸工業高等専門学校、八戸工業大学

日 時：平成 26 年 12 月 11 日（木）14：00～17：30

会 場：合併教室

参加者：教職員 14 名、学生 46 名、企業・大学関係者 36 名

(6) 平成 26 年度 産学官連携推進・ものづくり委員会

主 催：一般社団法人青森県工業会

① 第 1 回（欠席）

日 時：平成 26 年 6 月 23 日（月）13：30～15：00

会 場：ウェディングプラザ アラスカ

② 第 2 回

日 時：平成 27 年 2 月 25 日（木）13：30～15：30

会 場：ウェディングプラザ アラスカ

出席者：齊藤 貴之 地域テクノ副センター長

(7) 学による企業見学会

主 催：(公財)八戸地域高度技術振興センター

日 時：平成 27 年 2 月 24 日（火）14：00～17：00

会 場：ニッコー株式会社

参加者：矢口 地域テクノセンター長、電気情報工学科 中村 准教授

佐藤 産学交流・キャリア教育支援コーディネータ、土屋 嘱託教授、橋場 地域連携係長

(8) 平成26年度「八戸工業高等専門学校キャリア教育プログラム」企業内容説明会

本校学生に対するキャリア教育の一環として、企業の事業内容を紹介する場を提供し、学生に将来の職業観や勤労観を涵養させることを目的として実施した。本校産業技術振興会会員企業の他に、過去5年間で卒・修了生の採用実績がある企業を対象とした企業内容説明会は今年度で4回目の開催である。午前は企業によるプレゼンテーション、午後は企業のブースごとの説明という形式で行われた。ほぼ全ての参加企業が次回以降も参加を希望し、本校学生からも大変好評であった。

日 時：平成27年3月3日（火） 9：15～16：00

会 場：本校体育館

参加者：本科4年生、専攻科1年生等、保護者12名

企業119社（うちプレゼンテーション参加企業数31社）

(9) 平成26年度金属粉末関連産業育成研究会等開催業務「金属粉末フォーラム」

日 時：平成27年3月12日（木）14：00～17：10

場 所：八戸プラザホテル1階 ブリリアント

主 催：青森県三八地域県民局

概 要：基調講演・成果報告・今後の展望について・講演・パネルディスカッション

講 演：演題「八戸地域の産業振興における八戸高専の役割について」

講師 機械工学科 沢村 利洋 教授

参加者：機械工学科 古谷 准教授、佐藤 産学交流・キャリア教育支援コーディネータ

1. 3) 学学連携の実施

(1) 弘前大学大学院理工学研究科、八戸高専、一関高専、岩手大学工学部 4校学術交流会

弘前大学・八戸高専・一関高専・岩手大学の学術協力の協定に基づいて、4校間の協力・交流を図る事を目的に、毎年開催されている。岩手大学を会場に開催した今回は、学生の発表を中心に、ショートプレゼンテーション33件、ポスター発表が3件行われた。4校で83名の参加があり、参加者は各所で活発に意見を交わしていた。

日 時：平成26年7月18日（金）12：30～19：00

主管校：岩手大学工学部

会 場：ショートプレゼンテーション 岩手大学総合教育研究棟（環境系）復興祈念銀河ホール

ポスター発表・情報交流会 岩手大学工学部学生食堂

八戸高専発表者：

ショートプレゼンテーション

「QRコードを用いたシリジポンプ流量の認証システム」

専攻科 機械・電気システム工学専攻2年 小林 健太ほか学生6名

「ヒューマノイドロボット用重力補償機構の設計と実験的検証」

機械工学科 白田 聡 助教

(2) 東北地区高専テクノセンター長TV会議

日 時 :

- ① 第1回 平成26年4月16日(水) 12:40~13:00
- ② 第2回 平成26年5月15日(木) ”
- ③ 第3回 平成26年6月18日(水) ”
- ④ 第4回 平成26年7月16日(水) ”
- ⑤ 第5回 平成26年9月10日(水) ”
- ⑥ 第6回 平成26年10月8日(水) ”
- ⑦ 第7回 平成26年12月10日(水) ”
- ⑧ 第8回 平成27年1月21日(水) ”
- ⑨ 第9回 平成27年2月18日(水) ”
- ⑩ 第10回 平成27年3月11日(水) ”

出席者: 矢口 地域テクノセンター長、佐藤 産学交流・キャリア教育支援コーディネータ
橋場 地域連携係長、高橋 地域連携係員

(3) 東北地区高専テクノセンター長等会議

日 時 : 平成26年11月14日(金) 9:00~12:00

会 場 : 仙台高等専門学校 名取キャンパス

出席者: 矢口 淳一 地域テクノセンター長

(4) 東北6高専震災復興プロジェクト全体会議

ア. 全体会議

①第1回全体会議

日 時 : 平成26年8月5日(火) 13:30~16:30

会 場 : 仙台高等専門学校 名取キャンパス

出席者: 建設環境工学科 矢口 淳一 教授

②第2回全体会議、「未来防災システム研究会」設立総会

日 時 : 平成27年2月25日(月) 13:00~17:20

会 場 : 仙台商工会議所

出席者: 建設環境工学科 矢口 淳一 教授

イ. TV会議

日 時 :

- ① 第1回 平成26年9月9日(火) 10:00~11:00
- ② 第2回 平成26年11月17日(月) 14:00~15:00
- ③ 第3回 平成27年1月15日(木) 13:00~14:00(欠席)

出席者: 建設環境工学科 矢口 教授、清原 准教授、総合科学科 河村 教授、橋場 地域連携係長

(5) 東北地区高専産学官連携コーディネータTV会議

日 時 :

- ① 第1回 平成26年4月17日(木) 14:30～15:30
 ② 第2回 平成26年5月14日(水) 13:30～14:30
 ③ 第3回 平成26年6月18日(水) 15:00～16:00
 ④ 第4回 平成26年7月16日(水) 〃
 ⑤ 第5回 平成26年9月17日(水) 〃
 ⑥ 第6回 平成26年10月15日(水) 〃
 ⑦ 第7回 平成26年11月19日(水) 〃 (欠席)
 ⑧ 第8回 平成26年12月17日(水) 〃
 ⑨ 第9回 平成27年1月21日(水) 〃
 ⑩ 第10回 平成27年2月18日(水) 15:00～16:00
 ⑪ 第11回 平成27年3月25日(水) 13:00～14:00

出席者：佐藤 勝俊 産学交流・キャリア教育支援コーディネータ

2. 共同研究の推進

2. 1) 地域企業や他機関等との共同研究

(1) 平成26年度の地域との共同研究は次のとおりである。

表2 研究担当者および研究題目

委託者等	研究担当者	研究題目
弘前大学	物質工学科・山本 歩	地域農産物の機能性分析
NTT 物性科学基礎研究所	電気情報工学科・熊谷雅美	光半導体における励起子効果を用いたデバイス機能の研究
NTT 物性科学基礎研究所	電気情報工学科・中ノ勇人	ナノメカニカル構造における量子状態の研究
長岡技術科学大学	総合科学科・河村 信治	都市計画学領域における東日本大震災からの復興住民活動の活発化手法の検討
(株)金星	物質工学科・杉山 和夫	炭素繊維複合材料のリサイクル利用技術の開発
(株)ヤマグチマイカ	物質工学科・本間 哲雄	膨潤型鈹物層間多孔物質の合成
アルバック東北(株)	物質工学科・齊藤 貴之	アーク放電による新規ダイヤモンドコーティング装置の開発
エプソンアトミックス(株) 弘前大学	機械工学科・古谷 一幸	金属射出成形法による生体材料製品の開発
(株)セイシンハイテック (地独)青森県産業技術センター	物質工学科・杉山 和夫	リサイクル炭素繊維強化熱可塑性プラスチック製造用中間原料の開発
(株)浅利研究所 (株)フジミツ岩商 (地独)青森県産業技術センター	機械工学科・沢村 利洋	ウォータージェットを活用した中型魚用魚体処理装置の開発
サトーグリーンエンジニアリング (株)	物質工学科・杉山 和夫	炭素繊維複合材料のリサイクル利用技術の開発
(株)中屋敷建設	物質工学科・杉山 和夫	炭素繊維複合材料のリサイクル利用技術の開発
(株)セイシンハイテック	物質工学科・杉山 和夫	炭素繊維複合材料のリサイクル利用技術の開発
大太平洋金属(株)	機械工学科・沢村 利洋 建設環境工学科・南将人	工場排水を有効利用したマイクロ水力発電装置の開発とその実証試験

(2) 平成26年度の受託研究は次表のとおりである。

表3 研究担当者および研究題目

委託者等	研究担当者	研究題目
(独) 科学技術振興機構	機械工学科・沢村 利洋	ウォータージェットを活用した中型魚用魚体処理装置の開発
(独) 科学技術振興機構	物質工学科・杉山 和夫	リサイクル炭素繊維強化熱可塑性プラスチック製造用中間原料の開発
三菱瓦斯化学 (株)	物質工学科・松本 克才	化学研磨液による銅エッチングの速度論的解析
(株) ルネッサンス・エナジー・リサーチ	物質工学科・長谷川 章	「平成26年度 新規希少金属プロジェクトのための事前検討」水素製造用触媒分野における貴金属削減・軽希土類活用の検討／耐熱性 γ -アルミナの調整方法検討
(独) 科学技術振興機構	機械工学科・古谷 一幸	金属射出成形法による生体材料製品の開発
三菱マテリアル(株)中央研究所	物質工学科・松本 克才	Cu合金及びAl合金の電気化学的な物性の研究

(3) 平成26年度の受託事業は下記のとおりである。

表4 研究担当者および研究題目

委託者	研究担当者	受託・事業内容
(公財)八戸地域高度技術振興センター	機械工学科・村山 和裕	平成26年度人材育成支援事業 「CAD/CAM システムの基礎と実際」講座
青森県	機械工学科・沢村 利洋	体内流動状態観察システムの開発～CT データと3Dプリンタを活用したシステム構築に向けた流れの可能化手法開発～
青森県	電気情報工学科・工藤隆男	3Dプリンタと組み込み技術を用いた高血圧改善ハンドグリップの創成
八戸市	機械工学科・古谷 一幸	平成26年度八戸市粉体関連特性調査事業

2. 2) 学内共同研究プロジェクト

校長裁量経費に基づく事業であり、本校の教育・研究の高度化及び活性化に寄与すると同時に地域への貢献も期待されるものである。調査・研究を目的として採択された研究課題は「本校のシーズ」の一部と考えられるため、産業技術振興会会員に対する「情報提供の場」と位置づけ発表会への参加を要請した。一方、教育方法改善を目的とした課題の成果発表は本校教職員のFD活動の一環として捉えられるものである。発表会の日時等は以下に示す通りである。

(1) A. 調査・研究を主たる目的とする研究 (1～3)

B. 教育方法の改善等を主たる目的とする研究 [FD活動の一環] (4～8)

日 時：平成26年6月3日 (火) 13:30～15:30

会 場：八戸高専 合併教室

表5 発表者と課題名

	学科・研究者	課 題 名
1	電気情報工学科 佐々木 修平	高温超電導バルク体を用いた新規磁気浮上型免震装置の開発
2	電気情報工学科 釜谷 博行	校内案内ロボットのための高精度な環境地図生成システムの開発

3	建設環境工学科 馬渡 龍	やませ型・木造ドミノ住宅プロトタイプの開発
4		建築教育推進のための予備調査
5		7年一貫教育における PE 資格導入
6	総合科学科 戸田山みどり	学生の興味を駆動力とした英語文献にもとづく多読学習
7	機械工学科 郭 福会	中国における国際交流の推進
8	機械工学科 沢村 利洋	継続的な海外インターンシップに向けた取り組み

(2) B. 教育方法の改善等を主たる目的とする研究 [FD 活動の一環]

日 時：平成 26 年 7 月 30 日（水）13：30～14：45

会 場：八戸高専 大会議室

表 6 発表者と課題

	学科・研究者	課 題
1	建設環境工学科 杉田 尚男	田んぼアートプロジェクトにおける連携協働とその教育的効果についての研究
2	総合科学科 佐藤 純	低学年に対する経済・経営教養教育の充実・拡充
3	機械工学科 鎌田 長幸	出前授業内容の活性化対策
4	電気情報工学科 細川 靖	環境を意識したはんだ付けモノづくり教育の実践と鉛フリー化推進調査
		プロコンにおける雪の降らない地域や外遊びできない児童がバーチャルで雪合戦を可能とするシステム「SNOW-FIGHT」の試作
5	総合科学科 阿部 恵	低学年生のためのプレゼンテーション力向上プロジェクトーエドグレン高校との交流事業ー

(3) B. 教育方法の改善等を主たる目的とする研究 [FD 活動の一環]

日 時：平成 26 年 11 月 19 日（水）教員会議終了後

会 場：八戸高専 大会議室

表 7 発表者と課題

	学科・研究者	課 題
1	総合科学科 菊池 秋夫	多読学習モデルの授業内および地域貢献活動：特に 1 年生クラスにおける語彙学習・読解学習の助けとなるワークシートの活用

(4) B. 教育方法の改善等を主たる目的とする研究 [FD 活動の一環]

日 時：平成 26 年 12 月 17 日（水）教員会議終了後

会 場：八戸高専 大会議室

表 8 発表者と課題

	学科・研究者	課 題
1	総合科学科 丹羽 隆裕	ロボコン用ロボット設計の効率化に向けた設計環境の改善

(5) B. 教育方法の改善等を主たる目的とする研究〔FD活動の一環〕

日 時：平成 27 年 1 月 14 日（水）教員会議終了後

会 場：八戸高専 大会議室

表 9 発表者と課題

	学科・研究者	課 題
1	総合科学科 齋 麻子	「日本語コミュニケーション」の指導内容の拡充 ー調査して書くという客観的な記述を身につけるためにー

2. 3) その他

(1) A-STEP（研究成果最適展開プログラム 平成 26 年度第 2 回公募）説明会

主 催：国立高等専門学校機構

日 時：平成 26 年 7 月 17 日（木）16：30～17：30

会 場：中会議室（G I-net による中継）

講 師：（独）科学技術振興機構 産学連携展開部 研究支援グループ 副調査役 塩野 圭介 氏

参加者：教職員 5 名

(2) 第 7 回 教育研究支援センター技術発表会

日 時：平成 27 年 2 月 26 日（木）15：00～

会 場：八戸工業高等専門学校 中会議室

概 要：矢口 地域テクノセンター長挨拶、技術発表及び研修会報告

3. 地域への貢献

(1) 平成 26 年度人材育成支援事業

ア. 事業テーマ：「CAD/CAM システムの基礎と実際」講座

事業実施機関：（公財）八戸地域高度技術振興センター

講座実施中核機関：八戸工業高等専門学校

実施期間：平成 26 年 5 月 14 日～9 月 19 日、3 テーマ延べ 17 回（34 時間）開催

参 加 者： 38 名

事業の概要：本事業は、青森県八戸・むつ・小川原地域の主要な産業である機械加工分野について、八戸工業高等専門学校等が有するノウハウや設備の活用を中心とし地域企業の協力も得ながら、CAD/CAM システムや機械加工の基礎技術等に関する体系的な座学、実習講座を開設することにより、地域の中小企業の機械加工技術の高度化と求職者及び若手技術者・技能者の基礎技術力の向上を図り、本地域における産業の振興と雇用の創出を目指すものである。

講師：機械工学科 村山 和裕 准教授 他 機械工学科教員 7 名、教育研究支援センター職員 3 名

(2) 学外講座に対する参画・支援

ア. 講座名称：サイエンスフェスティバル 2014

主 催：(株)青森原燃テクノロジーセンター

日 時：平成 26 年 5 月 25 日（日）9：30～15：30

講 師：電気情報工学科 細川 靖 講師、鎌田 貴晴 助教、橋場 真紀 地域連携係長

イ. 講座名称：根城公民館「高専の日」

① 日 時：平成 26 年 6 月 7 日（土）10：00～12：00

テーマ：「高専の留学生やお兄さんお姉さんと楽しく遊びましょう」

講 師：総合科学科 戸田山 みどり 教授、齋 麻子 准教授

② 日 時：平成 26 年 10 月 11 日（土）10：00～12：00

テーマ：「中国語であそぼう」

講 師：総合科学科 中村 美道 准教授

③ 日 時：平成 26 年 12 月 20 日（土）10：00～12：00

テーマ：「科学って楽しい！実験大好き！」

講 師：総合科学科 丹羽 隆裕 助教

ウ. 講座名称：上長公民館「子ども科学教室」

主 催：上長公民館（八戸市）

日 時：平成 26 年 7 月 19 日（土）9：30～11：30

テーマ：「走るペーパーカーを作ろう」「わたあめ、べっこうあめを作ろう」

講 師：機械工学科 鎌田 長幸 教授、教育研究支援センター 千葉 憲一 技術専門職員

エ. 講座名称：八食わくわくフェスタ

主 催：協同組合 八食センター

日 時：平成 26 年 10 月 11 日（土）～13 日（祝・月）10：00～17：00

会 場：八食センター 厨スタジオ 2 階

講 師：建設環境工学科 杉田 尚男 准教授

オ. 講座名称：サイエンス体験事業

主 催：一般社団法人青森県発明協会

日 時：平成 26 年 10 月 12 日（日）11：00～15：00

会 場：青森県立三沢航空科学館

講 師：総合科学科 丹羽 隆裕 助教、学生（科学部）

カ. 高専見学会

日 時：平成 26 年 11 月 9 日（日）9：30～12：00

場 所：電気情報工学科棟ほか

概 要：八戸市少年少女発明クラブが各学科の演示実験を見学する。

参加者：クラブ員 24 名、引率・保護者等 15 名

表 10 担当者・テーマ・見学場所一覧

No.	担当者	テーマ	見学場所
1	機械工学科 鎌田教授・沢村教授	見えない現象を見る	M4 教室 (機械工学科棟 3 階)

2	電気情報工学科 中村（嘉）准教授	超伝導でジェットコースター	電気・電子実験室 （電気情報工学科棟 2 階）
3	物質工学科 長谷川 教授	極低温の世界を体験してみよう	物質工学科コース実験室 （物質工学科棟 1 階）
4	建設環境工学科 南 教授	「波（高波、高潮、津波など）」を起こす	水理実験室 （建設環境工学科棟 1 階）

キ. 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）

「八戸高専まちなか文化祭」

主 催：八戸工業高等専門学校

日 時：平成 26 年 12 月 14 日（日）10：00～17：00

会 場：ポータルミュージアムはっち 1 階・はっち広場

参加者：総合科学科 戸田山 教授、齋 准教授、菊池 准教授、若狭 助教、機械工学科 鎌田 教授、
木村 助教、電気情報工学科 細川 講師、建設環境工学科 馬渡 准教授

ク. 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」キックオフ・フォーラム

～青森の資源や人財のコンピテンシ育成拠点プログラム～

主 催：八戸工業高等専門学校

日 時：平成 27 年 2 月 11 日（水・祝日）14：00～16：00

会 場：八戸ポータルミュージアムはっち 2 階 シアター2

参加者：COC 採択校 5 名、産業技術振興会会員 4 名、一般 37 名、教職員 36 名、資料のみ 3 名
合計 85 名

概 要：特別講演

○演 題 『『香り』で相手の素性を知る』

一人の呼気から今日の元気度、野菜・魚・果物等の新鮮度、酒のうまさ、
溶けた金属の不純物をはかるー

○講 師 独立行政法人 日本原子力研究開発機構 研究連携成果展開部
工学博士 阿部 哲也 氏

パネルディスカッション

○テーマ 「地域産業の活性化と人財育成」

○司 会 機械工学科 沢村 教授

ケ. 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）

「留学生による国際交流のための出前授業」

主 催：八戸工業高等専門学校

日 時：①平成 27 年 2 月 19 日（木）9：00～13：00 ②平成 27 年 2 月 21 日（土）10：00～12：00

場 所：①八戸市立吹上小学校 ②白山台公民館

参加者：総合科学科 戸田山 教授、齋 准教授、菊池 准教授、小笠原 地域連携係事務補佐員

（3）平成 26 年度八戸工業高等専門学校産業技術振興会事業

表 1 1 産業技術振興会総会

期 日	内 容 等	場 所
平成 26 年 6 月 20 日(金) 16:00-18:00	役 員 会：平成 25 年度行事報告、平成 26 年度行事承認 定時総会：平成 25 年度行事報告、平成 26 年度行事承認 講 演 会 演題：「電子ビームを用いた金属版 3D プリンターの特徴と将来展望」 講師：東北大学 金属材料研究所 准教授 小泉 雄一郎 氏	八戸グランド ホテル

4. その他の活動状況（産学官連携等に関連した会合・研修等への参加）

4. 1）平成 26 年度会議等：地域テクノセンター関連「全国・東北」

（1）平成 26 年全国高専教育フォーラム

日 時：平成 26 年 8 月 26 日（火）～28 日（木）

会 場：金沢市アートホール、ホテル日航金沢、金沢大学（角間キャンパス）

出席者：総合科学科 戸田山 教授、阿部 教授、齋 准教授、丹羽 助教

（2）平成 26 年度東北地区高等専門学校教員研究集会

日 時：平成 26 年 9 月 18 日（木）～19 日（金）

主管校：仙台高等専門学校

会 場：仙台高等専門学校（名取キャンパス）

発表者：物質工学科 齊藤 貴之 准教授

（3）平成 26 年度 女性研究者研究交流会

主 催：（独）国立高等専門学校機構

日 時：平成 26 年 12 月 15 日（月）10：00～16：40

会 場：学術総合センター

発表者：総合科学科 齋 麻子 准教授

（4）全国国立高等専門学校 3D プリンタ・アイディアコンテスト

主 催：（独）国立高等専門学校機構

世話校：八戸工業高等専門学校、仙台高等専門学校

日 時：平成 26 年 12 月 19 日（金）13：00～17：30

会 場：AER 5F 仙台市情報・産業プラザ 多目的ホール

参加者：電気情報工学科 野中 崇 准教授 他 学生 5 名

4. 2）平成 26 年度 地域テクノセンター関連「講演会」

（1）「科研費申請のノウハウについて」の説明会

日 時：平成 26 年 7 月 23 日（水）教員会議終了後

場 所：大会議室

講 師：岡田 益男 校長

参加者：教職員 63 名

(2)「競争的研究資金セミナー」の開催

日 時：平成 26 年 7 月 30 日（水）プロジェクト研究成果報告会終了後
場 所：大会議室
演 題：「競争的研究資金の仕組みと申請のポイント」
講 師：榊島津製作所 産学官プロジェクト推進室 橋本 志朗 氏
参加者：教職員 22 名

(3)「3Dプリンタ講演会」の開催

日 時：平成 26 年 9 月 1 日（月）17：30～18：30
場 所：合併教室
演 題：「3Dプリンタがやってきた！モノづくり新時代の幕開け」
講 師：岩手県立大学 地域連携研究センターものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター
プロジェクト研究員 福原 和哉 氏
参加者：教職員・地域企業等 100 名

(4) 科研費及び研究費不正使用防止に関する説明会

日 時：平成 26 年 9 月 12 日（金）15：00～16：00
場 所：合併教室
演 題：「科研費の最近の動向～研究費不正使用防止を含む～」
講 師：独立行政法人日本学術振興会 研究助成第二課長 辻山 隆 氏
参加者数：教職員 75 名、近隣大学関係者 7 名

(5) 八戸高専版公的研究費使用マニュアル説明会

① 第 1 回

日 時：平成 26 年 9 月 12 日（金）16：05～16：25
場 所：合併教室
講 師：佐藤 猛 総務課長補佐（財務担当）
参加者数：教職員 74 名

② 第 2 回

日 時：平成 27 年 3 月 13 日（金）16：15～17：20
場 所：大会議室
講 師：佐藤 猛 総務課長補佐（財務担当）
参加者数：教職員 19 名

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	地域文化研究センター委員会	筆耕者	舘野 安夫
行動計画	1. 共同研究の推進。 2. 地域における教養教育活動の企画・実施。 3. 『地域文化研究』の平成26年度版の発刊。 4. ホームページの整備等、情報発信の推進。 5. 収蔵資料の整理と記録。		

I. 共同研究の推進

他の教育機関と共同で、震災復興に関連する街づくり活動に参加している。学生を巻き込んでのボランティア活動により、青森県南～岩手県北沿岸地域の震災復興に協力している。

II. 地域における教養教育活動の企画・実施

教員のボランティアであるが、地域での出前授業等の活動を行っている。特に、八戸ポータルミュージアム「はっち」を利用したイベント等には積極的に参加している。今後、さらに地域文化研究センター委員会としての協力体制を整える。

III. 『地域文化研究』の平成26年度版の発刊

学校内外のサポーターより多くの原稿が寄せられ（9件）、無事に『地域文化研究』の平成26年度版（第23号）が発刊された（2015.3.13発行）。

IV. ホームページの整備等、情報発信の推進

広報すべき情報の整理が進んでいないため、ホームページの整備は進んでいない。今後の課題とする。

V. 収蔵資料の整理と記録

図書館の改修工事に伴い地域文化研究センターエリアの見直しが行なわれ、また収蔵品の移動が行なわれた。収蔵品整理は予定通りには進まず、作業方法やスケジュールの見直しを必要としている。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	廃水処理施設管理運営委員会	筆耕者	長谷川 章
懸案事項	I. 廃水処理についての認識の強化 II. 廃水処理施設設備の更新		

I. 廃水処理についての認識の強化

1. 教職員への啓蒙活動

全教員に対して、排水への固形ゴミ流入の禁止、実験室廃水系の確認、実験廃液処理の手続き、水銀の排出禁止について説明し、ご協力をお願いした。さらに、「廃水処理の手引き」をガルーンに掲載し、廃水処理についての認識強化に努めた。

2. 学生への啓蒙活動

各クラス担任をつうじて、廃水への固形ゴミ流入禁止について依頼し、廃水処理施設の重要性についての啓蒙活動認に取り組んだ。

II. 廃水処理施設機器の更新

今年度廃水処理施設は大きなトラブルもなく運転することが出来た。しかし、各種設備の老朽化が進んでおり早期に全面的な更新が望まれる。また、水銀吸着塔イオン交換樹脂の交換が至急必要である。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	相談室運営委員会	筆耕者	今野 恵喜
行動計画	1. 特別支援体制の整備の推進 2. キャリア支援への取り組み 3. 要支援学生の把握		

1. 特別支援体制の整備の推進

相談室の活動は、面談日を週2回として継続してきている。水曜日に、笹 博カウンセラー（医師・ささクリニック医院長）、中西智子カウンセラー（臨床心理士・八戸市立市民病院非常勤）、木曜日に、坂本玲子カウンセラー（産業カウンセラー、スクールカウンセラー）、石川善子カウンセラー（臨床心理士）、金曜日に土屋文彦カウンセラー（臨床心理士）が担当である。

当委員会では、発達障害のある学生本人と保護者からの要請を受け、教務主事、学生主事、寮務主事（フロア担当教員含む）、総合科学科長（学年主任、科目担当教員、非常勤講師、含む）、学科長（専門科目担当教員含む）、実習工場グループ長、担任、相談室長（副室長、学科相談員含む）、看護師、学生課長が連携する支援体制のもと対応してきている。今年度も、本人への情報伝達、定期的話し合い、ノートテイク用にパソコンとカメラの使用許可、寮の学習時間でのパソコン使用許可などに対応してきている。また、性についての違和感を持つ学生については、保護者の意向を確認し、精神科医のご指導をいただきながら、担任、教務主事、学生主事、寮務主事、相談室長で対応してきている。4月にはカウンセラーとの面談、7月に改名、後期には次の段階へ進むため休学した。他の学生についても、担任、相談室相談員、カウンセラーが連携して支援してきている。

一方、研修を通じた情報収集も次のように行われている。教職員対象には、青森県総合学校教育センター小沼順子指導主事から「発達障害系の学生への対応と支援体制について」の講演をしていただいた。それから、県総合学校教育センター主催の4つの研修講座に副室長と担任が参加し、「いじめ対策」、「グループアプローチを用いた人間関係づくり」、「保護者とのよりよい信頼関係づくり」、「社会が求める力を育むグループワークの実践」について学んでいる。さらに、日本学生相談学会主催の研修会には室長、副室長が参加し、「発達障害学生への支援」、「自殺予防・自殺対策」、「相手を元気にする会話術」、「学生相談と精神医学」、「セクシャルマイノリティ」、「合理的配慮」について、そして、国立高専機構主催の研究集会には、室長、副室長、看護師が参加し、「学生相談事例」や「保健室におけるメンタルヘルス業務のあり方」、「メンタルヘルス業務の技法（実践例）」について、それぞれ学んできている。また、東北地区高等専門学校学生相談連絡協議会には、室長と看護師が参加し、「特別な支援を必要とする学生への対応」や「危機管理・危機対応」について学んでいる。以上の研修の一部についてはFDでも報告してきている。

2. キャリア支援への取り組み

今年度も新入生オリエンテーションの時にポートフォリオを配り活用を促した。また、1年生を対象に講演会『「自己理解」とエゴグラムの実施』を開催した。

3. 要支援学生の把握

次に示す各種調査をもとに要支援学生を把握し対応した。「構成的グループエンカウンター」（1年生を対象に4月）、「こころと体の健康調査」（全学生対象に5月と12月）、「Q-U（Questionnaire-Utilities）検査」（1～3年生対象に5月と10月）、「話してみよう！1分間」（1年生を対象に7月と1月）、「エゴグラム」（1年生を対象に11月）。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	危機管理関係	筆耕者	工藤 隆男
行動計画	1. 緊急時のメール一斉配信システムの構築（継続） 2. 学内におけるリスクの調査（継続） 3. いじめ防止等対策ポリシーの策定と推進		

1. 緊急時のメール一斉配信システムの構築

前年度に引き続き安否確認等の緊急時の連絡網構築のため、学生、保護者、教職員の協力を得て携帯メールアドレスの登録を行い、緊急時に備えた連絡システムを整備している。しかしながら、アドレス変更時の更新手続きをしない、受信側が迷惑メール扱いとして受信拒否するなど解決すべき課題が残されている。解決策のヒントを得るため、八戸大学のメールシステムについて見学をした。ここでは、メールばかりでなく講義に関する情報をはじめ学生個々が必要とする諸連絡機能を含む統合システムを運用していることから、本校で抱えているような問題はないとのことであった。この事例から、緊急メールシステムを独立運用するのではなく、学生サービスと通常メールを一体化したシステムが望ましいことが分かった。

27年度より学生のメールは、高専機構が用意するクラウドサービス型グループウェアOffice365の無料メールを使用できることになった。クラウド化によって学生各自の携帯端末（スマホ、タブレット...）で学校の内外でメールの送受信ができることになることから、安否確認の効率向上を期待できる。そこで、2月のリスク管理室委員会―メール会議において「本校においてもOffice365に移行する前提で準備を進める」ことについて合意を得た。機構の学生用メールサーバは27年6月から使用可能になるよう準備中である。現在それを待っている状況にある。本システムを使用することにより、使い慣れたエクセル、ワード、などのオンラインバージョンとグループウェア機能を使用可能になることから緊急事態はもちろんのこと通常の連絡もより確実にメールでできるようになると考えている。

2. 学内におけるリスクの調査

学内の事故を未然に防止することを目的に安全衛生専門委員会が中心になり構内における危険性が懸念される箇所やケースについて毎月調査している。その結果、体育館ギャラリーへの木製階段がすり減っていたものを改修した。また、校内に複数台設定しているAEDの設置場所の再最適配置の観点から、グラウンドに必要との結論に至り、第1体育館と第2体育館に設置しているもののうち、2体のモノをグラウンドに移動した。

3. いじめ防止等対策ポリシーの策定と推進

いじめ防止等対策ポリシーといじめ防止対策委員会規則について、取りまとめた。これらは、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）により、学校ごとに策定・公開・推進することが義務付けられているものである。作成方針として、ポリシー案については機構のポリシーを参考に八戸高専版を作成し、委員会案については推進法運用を目的とし、いじめ防止対策推進と重大ないじめが起きてしまった場合の調査対応の観点から作成した。

なお、以上の経過により作成の「八戸工業高等専門学校いじめ防止等基本方針」については7月からホームページで公開した。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	男女共同参画委員会	筆耕者	戸田山 みどり
行動計画	1. アンケート調査等を利用した女性教員および女子学生の就業・就学における困難や意識等に関する現状把握 2. FD 及び学生対象の講演会などによるワーク・ライフバランス、キャリア意識形成、学習・就業等についての権利の保障、犯罪被害予防などに関する啓発活動 3. 女子学生支援のための組織づくり・支援体制の強化の提案と実現 4. 八戸工業高等専門学校としての独自の行動計画の策定 5. 女性教員、女子学生比率の向上に向けての校内の環境整備と増募活動		

1. 独自のアンケートは実施できなかった。アンケートではなく、個別の聞き取り等を重視するように改善する。個別の事例に関しては、ハラスメント相談員である委員からの情報などで、校内の状況を把握することができた。

2.

・FD 報告会として、各種男女共同参画関連のセミナーに参加した教員より、報告を行った。

3月13日（金）

1) 平成26年度女性教育会館主催「大学等における男女共同参画推進セミナー」報告

報告者：物質工学科 齊藤貴之准教授

2) 平成26年度国立高等専門学校機構男女共同参画推進協議会参加報告

報告者：総合科学科 戸田山みどり委員

3) 平成26年度 高専機構主催「女性研究者研究交流会」について

報告者：総合科学科 齋 麻子准委員

・学生対象の講演会として、以下の行事を実施した。

6月12日 女子学生対象防犯教室（厚生補導委員会と共催）

協力：青森県警

11月13日（木） 岩手大学男女共同参画推進室共催「キャリアパス支援のための高専相談会」

(1) 「進路説明会 “大学で学ぶとは～技術者・研究者になるために～”」

（本科2年生対象）（このパートは八戸高専男女共同参画委員会主催）

(2) 「個別相談会」（本科2～4年生および専攻科1年生希望者対象）

(3) 「キャリアパス支援のための高専相談会」（4・5年生および専攻科1年生希望者対象）

2月26日（木）女子学生対象生活支援講演会「すてきな恋、してますか？」

協力：岩手大学男女共同参画学生委員会および岩手大学男女共同参画推進室

・工学基礎B 産業教育系の授業で各クラス1回（2時間）の、男女共同参画に関する授業の実施。

・「高専だより」各号における男女共同参画委員会からの記事（1/2 ページ、年3回）。

3. 高専女子フォーラムに関連した活動を行った。

5月12日 東北地区高専女子フォーラム実行委員会

参加：戸田山委員

その他、数回のテレビ会議での意見交換をおこなった。

9月6日 実施された高専女子フォーラム in 北海道（会場：北海道大学）視察。

参加：阿部委員、学生実行委員2名

4. 行動計画策定の準備として、各種セミナーに参加し、情報を収集した。

5月22日（木）岩手大学 男女共同参画推進室主催 管理職セミナー&合同連携推進会議

会場：岩手大学

演題：効果的な男女共同参画施策に向けて

講師：久保真希氏（沖縄科学技術大学院大学 副学長）

参加：工藤憲昌委員、橋本委員、戸田山委員

7月18日（金）岩手大学男女共同参画推進室主催 若手女性研究者の研究力向上支援セミナー

会場：岩手大学

演題：研究発表のデザインー効果的な伝え方・見せ方ー

講師：片山 なつ氏（日本女子大学理学部 学術研究員）

参加：齋委員、戸田山委員、佐藤久美子委員、橋本委員

12月15日（月）平成26年度 女性研究者研究交流会

会場：学術総合センター

参加：齋委員

3月3日（火）平成26年度国立高等専門学校機構男女共同参画推進協議会

会場：学術総合センター

参加：佐藤久美子委員、戸田山委員

5.

・教職員増募について

以下の教員募集説明会に参加し、女性応募者の増加をはかった。

6月1日（日）高専機構主催 高専教員募集合同説明会高専教員募集合同説明会

会場：学術総合センター（竹橋）

参加予定：舘野総合科学科長、戸田山委員

8月9日（土）東北地区高専教員採用説明会

会場：仙台市情報・産業プラザ

参加予定：舘野総合科学科長、戸田山委員

- ・女子学生増募について

女子中学生向けの広報誌「高専女子百科 Jr.」を編集・作成・配布して、広報活動を行った。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	産業システム工学プログラム委員会	筆耕者	工藤 憲昌
行動計画	1.JABEE 受審の準備		

1. JABEE 受審の準備

平成23年度のJABEE基準の改正に対応すべく、主に産業システム工学プログラム計画委員会が、文言の変更、新しい基準と学習・教育目標との対応、各分野毎の時間基準から単位数基準への対応、移行措置等を具体的に検討し、専攻科まで段階的に移行する準備を行った。

このほかに、産業システム工学プログラム点検評価・改善委員会が検討を進めた教育エビデンスの作成方法の簡素化について、平成24年度から継続して同委員会の提案内容で実施している。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	産業システム工学プログラム計画委員会	筆耕者	藤原 広和
行動計画	1. 2012 年度改正 JABEE 基準への対応 2. JABEE 継続審査の準備		

1. 2012 年度改正 JABEE 基準への対応

27 年度専攻科改組に伴い、2012 年度改正 JABEE 基準対応し、別表 2 を改正した。

2. JABEE 継続審査の準備

25 年度に実施した本科学学生、専攻科学学生、卒業生、企業、保護者へのアンケートの集計・分析を行った。
自己点検書等、準備中であったが、JABEE 認定継続審査の是非について次年度に検討することになった。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	産業システム工学プログラム点検評価・改善委員会	筆耕者	松橋 信明
行動計画	I. 簡略化した授業エビデンス収集方法の定着 II. JABEE 受審に向けての対応		

I. 簡略化した授業エビデンス収集方法の定着

平成24年度に授業エビデンス収集方法の負担軽減を検討し、平成24年度授業エビデンスから適用して、授業エビデンス保管の負担軽減を図ることになった。しかし、授業エビデンスをチェックした結果、従来の収集方法であったり、授業エビデンスを保管しない教員が少なからずいた。

そこで、教員会議や学内回覧で簡略化した授業エビデンス収集方法を繰り返し説明し、定着を図った。その結果、簡略化した授業エビデンス収集方法は徐々に定着してきたことがわかった。

II. JABEE 受審に向けての対応

1. 平成25年度エビデンス収集

平成27年度が JABEE 受審予定であるため、平成25年度と平成26年度の授業エビデンスがチェック対象となる。そこで、平成25年度の授業エビデンスを完全なものにするため、エビデンス保管締切を4月末に設定し、教員会議や学内回覧で全教員への周知を行った。そして、チェックリストに基づき、点検評価・改善委員による保管状況チェックを実施したが、保管状況が非常に悪く、数か月ごとに周知とチェックを繰り返してきた。未収納の教員に対しては、各科の点検評価・改善委員が個別に指導に当たった。

その結果、平成27度2月末において、E科とC科は全科目収納したことを確認できたが、G科は33科目、M科は6科目、Z科は18科目が未収納であり、3月末までには必ず収納してほしい。

2. 授業点検

継続して、1教員につき2年に1回程度の頻度で点検評価・改善委員が分担して授業点検を実施している。平成26年度の授業点検実施状況は、前期はG科4名、M科3名、E科1名、C科3名、Z科3名の計14名、後期はG科5名、M科2名、E科4名、C科3名、Z科2名の計16名で、年間30名の教員の授業点検を実施した。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	教育点検評価・改善委員会	筆耕者	松橋 信明
行動計画	Ⅰ．簡略化した授業エビデンス収集方法の定着		

Ⅰ．簡略化した授業エビデンス収集方法の定着

本委員会は、産業システム工学プログラム点検評価・改善委員会と同様の行動である。

平成24年度に授業エビデンス収集方法の負担軽減を検討し、平成24年度授業エビデンスから適用して、授業エビデンス保管の負担軽減を図ることになった。しかし、授業エビデンスをチェックした結果、従来の収集方法であったり、授業エビデンスを保管しない教員が少なからずいた。

そこで、教員会議や学内回覧で簡略化した授業エビデンス収集方法を繰り返し説明し、定着を図った。その結果、簡略化した授業エビデンス収集方法は徐々に定着してきたことがわかった。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	総合科学科	筆耕者	舘野 安夫
行動計画	1. 教育内容の充実 2. 学生指導の連携 (担任、メンターコーディネーター、相談員等) 3. 大学・大学院編入学希望学生のサポート (試験問題傾向の研究、参考書の調査) 4. 常勤教員人材計画の検討 (化学・数学担当欠員の補充)		

I. 教育内容の充実

4学期制導入の準備と、それに伴うカリキュラムの変更の準備が必要となった。授業時間数の低減を目的として学修単位科目が大幅に増えるため、授業内容および授業の進め方の見直しが必要となる。また、コアカリキュラム導入に対応するための検討も、各教科で開始している。

II. 学生指導の連携

発達障害学生に対する指導方法向上を低学年指導重要課題と位置づけ、学生相談室等との協力体制を固めている。該当する担任教員が中心となり、関係する教員全員に対して積極的な情報提供を行なっている。

III. 大学・大学院編入学希望学生のサポート

夏休み期間に東北大学のオープンキャンパス参加ツアーを行い、学生に大学を体験させることができた。また、過去の編入学者のデータを整理し、受験希望者の進路決定のための参考資料を作成し学生に配布した。今後、TOEIC 関連のデータを整理し、指導方法の検討を行なう。

V. 常勤教員の補充

化学担当教員1名の欠員に対して、学内教員の移動・昇格により補充が行なわれた。数学担当教員2名の欠員に対して公募を行い、准教授1名、助教1名が採用された。今年度の欠員教員の補充は順調に行なわれたが、来年度の定年教員に対する補充は凍結されるため、将来の人材計画の見直しが必要となる。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	機械工学科	筆耕者	武 尾 文 雄
行動計画	1.学力向上を目指した学生支援 2.キャリア支援 3.増募対策 4.中国との交流推進 5.日本機械学会東北学生会卒業研究発表会の実施		

1. 学力向上を目指した学生支援

(1) 授業支援・補充授業・補充試験の実施

補充授業・補充試験は科目担当者が必要と判断した場合に行った。機械工学科4年の材料力学では、定期試験の前に自主参加の勉強会を行った。また機械工学科3学年の設計製図の授業では、設計の考え方が分からずに作業が遅れていた学生に対し、授業の空いている教員2名がサポートに入り個別巡回指導を行った。そのほか設計製図の図面や実験レポートの提出時には、個別に丁寧な検図・検読指導を行った。

(2) 編入生及び編入学予定者に対する指導

工業高校からの編入生1名に対し、前年度に添削指導を行った範囲の材料力学部分に関する理解度確認試験を行い、新たに認定されることになった単位（1単位）を申請した。また27年度に機械工学科2学年に転学科することが決まった学生1名に対し、3月中に機械設計製図および工作実習の補習指導を行った。

(3) 機械工学科2学年担任との連携

機械工学科では、学科会議の席で学級担任からクラスの状況について報告してもらい、情報交換を行っている。26年度機械工学科2学年担任の馬淵准教授と連携を取り、可能な場合は学科会議の冒頭に参加していただき、都合がつかない場合はコメントを寄せていただく形で同クラスの状況に関する情報共有を行った。

2. キャリア支援

企業の採用活動の早期化を受け、昨年に引き続き新5年生の保護者懇談会（三者面談）は、就職希望者について学校行事予定の4月19日から繰り上げて3月15日に実施した。また研究室単位での履歴書等の添削、面接対策等の指導を個別に行った結果、就職希望者全員が内定した。進学希望者については、航空大学校を再受験するために研究生となった1名を除き、全員、専攻科や国立大学に合格した。

一方、4年生については、経団連の申し合わせによる採用活動の大幅な後ろ倒しが初適用となる学年であることから、11月15日の保護者懇談会において時間を割いて説明した。

3. 増募対策

(1) 学校紹介DVD、学校案内の内容更新

学科紹介の多くが工作実習の内容になっていたこともあり、工業高校と同様の学校と認識されていたのではないかと反省から、機械工学科部分の内容を刷新した。医工学関連のテーマなどを盛り込むと共に、女子学生も登場させてイメージアップを図った。平成27年度入試では、全体の応募人数としては低迷しているものの、過去最多となる女子6名が入学することとなり、一定の成果が得られたものと思われる。

(2) 中学生対象の公開講座「メカ no ワールド体験塾A・B」開講

進路選択の参考として、中学生に機械工学の世界を体験してもらうことを目的に、学科内の施設や設備を活用した公開講座を行った。昨年と同様、異なる内容で2回に分けて実施した。6月28日の「メカ no ワールド A」は25名、9月6日の「メカ no ワールド B」は25名の参加があり、アンケート結果でも大変好評を得た。また本講座を受講して本校を第1志望で受験した生徒も複数名おり、増募対策として一定の効果が上がっていると思われる。

(3) 小学生対象の公開講座「ロケットはなぜ飛ぶか」

水を使うこともあり、実施時期を昨年度までの高専祭期間中から夏休み直後の暖かい時期に変更し、8月23日に小学生11名の参加を得て実施した。今年度も白山台公民館の企画としても取り込んでいただき、同館職員のスタッフも実施状況を視察された。

(4) 体験入学

参加者は二日間合わせて機械工学科の第一希望は152名(昨年125名)、第二希望は192名(昨年175名)と昨年よりもやや増加した。体験学習ではスタンプラリー(景品付き)を実施するなど5年生、専攻科生の支援を得て充実した内容を盛り込んだ。

(5) ホームページの充実

新着情報のコーナーに各種行事やニュースを随時掲載するように努めた。また27年度からの改組にあわせ、機械システムデザインコースのホームページを全面的に更新する準備を行った。

4. 中国との交流推進

前年度に大連理工大学、大連交通大学の関係者を本校に招いて相互交流を図っていくことを確認したことに基づき、初めて本校学生による大連訪問を実現した。大連交通大学では、国際コースの学生と共に英語での機械設計の授業や電気系の学生実験を受講した。今後、大連からの訪問を含めた交流を推進していくことを確認した。

期 日：平成26年11月3日～14日

参 加 者：学生4名(専攻科1年)、引率2名

主な訪問先：大連理工大学、大連交通大学、

大連帝国キャンドモータポンプ有限公司、北京威猛商貿有限公司

5. 日本機械学会東北学生会卒業研究発表会の実施

本校機械工学科が平成26年度の日本機械学会東北学生会委員長校を担当したことに伴い、同学生会の総会と併せて実施される「日本機械学会東北学生会第45回卒業研究発表講演会」を平成27年3月10日に本校を会場として開催した。東北学生会の会員である学生はもちろん、機械工学科全教職員が一丸となって協力し準備・運営を行った。本校側には、専用ホームページの開設や専用メールアドレスの登録などでご協力を頂いた。

その結果、134件の講演申込があり、224名の参加を得て128件(取り下げ6件)の講演が行われた。またこのうち独創研究学生賞のセッションには48件の応募があり、本校機械工学科5年の木村哲也君を含む3名が学生賞を受賞した。

—平成26年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	電気情報工学科	筆耕者	松橋 信明
行動計画	I. 実験実習の充実 II. 基礎学力の向上 III. 進路支援		

I. 実験実習の充実

1. 補正予算や教育研究設備維持費等による設備の導入

補正予算や教育研究設備維持費等により、以下の設備の導入による実験実習の充実を図ることができた。

(1) 組み込み技術教育用設計・演習システムを導入

組み込み技術教育用設計・演習システムを導入し、E4・E5の講義や実験において活用した。

(2) 3Dプリンタを導入

3Dプリンタを導入し、E4の実験、卒業研究、特別研究において活用した。また、3Dプリンタ コンテスト、ロボットコンテスト、中学生一日体験入学用デモ機等、様々なイベントにおいて活用した。

(3) 硬度計の導入

硬度計を導入し、卒業研究や特別研究において活用した。

(4) 薄膜作製装置の導入

薄膜作製装置を導入し、卒業研究や特別研究において活用した。

2. 鉛フリーはんだづけ工作と講習会の実施

昨年度から継続して、環境を意識した鉛フリーはんだづけ工作と講習会をE3対象に実施し、はんだづけ技術の向上を図ることができた。

II. 基礎学力の向上

1. COC予算等による取り組み

COC予算等により、以下の取り組みを行い、基礎学力の向上を図った。

(1) 動く教材の作製

オリジナルの動く教材を作製し、E3の授業等で活用した結果、授業理解において効果があった。

(2) 小型電動ラジコン飛行機によるモノづくり教育

小型電動ラジコン飛行機の一貫するモノづくり教育を行い、モノづくりによる基礎学力の向上と達成感が得られる教育を実現できた。今後、自主探究プログラムテーマとして検討していきたい。

(3) 三端子パワーエレクトロニクスデバイス教材開発

学生実験に三端子パワーエレクトロニクスデバイスの評価を取り入れるべく、基礎学力の向上につながる教材の基本構成を提案できた。

2. 演習指導を重視した補習の実施

昨年度に引き続き、専門導入教育の重要性から、演習指導を重視した補習を積極的に実施し、全員の基礎学力の向上を図ることができた。

Ⅲ. 進路支援

1. 三者面談及び就職指導の実施

学科独自で3月中旬に就職希望者を対象に三者面談を実施し、その後は、企業選択の助言、履歴書及びエントリーシートの添削、面接指導までの一貫した就職活動の支援を、学科をあげて実施した。その結果、就職希望者の4月下旬で約半数、6月上旬ではほぼ全員、7月上旬で公務員希望を除く全員の内定を得ることができた。

2. 進学指導の実施

今年度は進学希望者が約5割と例年以上に多く、適切な進学指導の結果、11名が本校専攻科、10名が国立大学へ進学できることになった。そして、専攻科においても2名が東京大学大学院、1名が東北大学大学院に進学できることになった。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	物質工学科	筆耕者	松本 克才
行動計画	1. 学生支援・進路支援の充実 2. 改組に向けた学科・研究の実力向上 3. 専門性を生かした地域貢献		

1. 学生支援・進路支援の充実

5年生と専攻科生に対して4月に進路ガイダンスを実施した。さらに、5年生に対しては保護者懇談会（3者面談）を4月に行い、進路の確定に役立てた。4年生に対しては、11月に3者面談を行い、進路確定までの流れおよび実績について説明し、進路についての相談・指導を行った。低学年の2、3年に対しては、進路の動機付けを啓発するためにクラス担任がきめ細かな進路指導を行った。例えば、2年生に対しては、6月に特別活動の中で学科長が進路状況を、学科の5年生が進路決定までの経験談を紹介した。

1年生に対しては、新入生ガイダンスや物質工学序論（授業）にて、在学、および卒業後の進路の流れを説明した。また、9月にはJX日鉱日石エルエヌジーを引率教員2名により見学し、自分の将来について考える機会を与えた。さらに1年生には、5、7、12月に研究室訪問を行い、各教員が学校生活や進路、実験や研究等について説明・懇談した。

2. 改組に向けた学科・研究の実力向上

学生の専門科目における実力の把握、および向上のため、12月に第3学年に対し、分析化学、無機化学、有機化学を、1月に第4学年に対し、化学工学、物理化学、生物化学の実力試験を行った。各科目担当教員はこの結果を解析、学生の真の実力向上に向けて授業内容の改善などに利用している。

また、7月には仙台国際センターで行われた「材料フェスタ」に3研究室4名の学生が参加し、すべての学生が受賞した。さらに3月には化学工学会の東日本学生発表会が八戸高専で行われ、その運営に携わるとともに、多くの学生が発表した。その他、全国区の学会の講演大会にも積極的に参加している。

3. 専門性を生かした地域貢献

本学科では、理科が好きな中学生を育てる活動として、『化学の学校』と『中学校理科系教員研修』の2つの行事を例年実施している。

『化学の学校』は青森県全域及び岩手県北より参加する中学生に対し八戸地区の理科系教員と本学科教員が一緒になって化学実験を体験させているものであり、例年、多くの中学生が参加し、大変好評である。

『中学校理科系教員研修』は“「もの」にかかわる中学校理科実験のスキルアップ”と称して八戸市及び三戸郡の中学校教員の実験技術の向上を目的として実施するものである。このプログラムは、実施の主体は本学科であるが、最近では、全校的な取り組みとして行っている。

また、技術相談や技術指導はもちろん、5月、10月および1月には本校が主催、学会支部共催の技術発表、技術講演会の開催を行うなど、企業等への技術教育に対する貢献を行っている。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	建設環境工学科	筆耕者	南 将人
行動計画	1. 国際的視野を持った実践的教育の推進 2. 個別学生の支援 3. 震災に関する支援活動及び教育研究の展開		

1. 国際的視野を持った実践的教育の推進

フランスから短期留学生2名を受け入れ、Z5のクラスに配属し3ヶ月間研修した。また、専攻科1年生1名はフランスへ3ヵ月間留学し、帰国後に研修内容を学外研修報告発表会において英語で発表した。また、Z5の卒業研究発表で11名が英語で発表した。さらに香港IVE(Tsing Yi 校)の土木工学専攻の学生との受け入れ交流の検討を行い、平成27年度に実現予定である。

2. 個別学生の支援

個別学生の支援策として今年度実施したのは以下の4項目である。①5年生に対する到達度試験を実施(4/14,15,17)した。専門5科目について4年次までの到達度を把握し、進路勉強に役立てるために進級直後に実施した。②進路支援勉強会の実施として、4年生は後期12/5から1/28に行い、20名前後の学生が参加した。③日建学院との協定により、「2級建築士学科アカデミック講座」に2名の学生の申込があり全14回を受講した。この受講体制を整えた。この講座は、卒業後に全国各地で試験対策を続けられ、早期の資格取得が可能となり、平成27年7月の受験に向けて準備が続けられている。④建設の各業界研究として、ゼネコン、サブコン、マリコン、コンサル、公務員、運輸の全6分野に対して、希望する学生の業種分野研究会を平成27年1月から2月にかけて実施した。

本学科学生に対する進路決定の支援体制については「進路決定支援年間予定および実施状況一覧表」を作成し、学年ごとに、その時期、事項、実施時間、担当者を決定してきめ細かく指導してきている。実施については、支援活動幹事(5学年担任)を設け、幹事と担当教員との間で連絡を取りながら確実に支援活動を行った。その結果平成26年度では20名の就職希望(内公務員6名)、15名の進学希望の全員(合計35名)の進路が決定した。

3. 震災に関する支援活動及び教育研究の展開

震災からの復興に尽力する意欲のある学生を重点的に育てるため、一昨年度の入学試験から推薦選抜の中に「復興人材枠」を設け、三陸沿岸の中学校へパンフレットの配布でアピールした。昨年から始まった東北6高専プロジェクト「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」(東北地域の産業復興を行う技術者人材育成)では今年度以下の活動を行った。①震災の被害調査、震災対策研究ー防災施設の改善法など震災、津波、液状化に関連するテーマに学生たちは取り組み、卒業研究や特別研究で研究し、土木学会東北支部など学内外において多数の発表を行った。②公開講座の実施ー、「ソイルタワーコンテスト」(7/19)と「防災(地震、津波、防災計画)」(10/4)を実施し、中学生・保護者などを対象に防災の講演と三陸復興道路の一部である橋梁上部工建設現場の見学を行った。③第3学年対象に、復興道路とも呼ばれている現在建設中の三陸縦貫道の階上伸張工事現場と東北電力(株)八戸技術センターのメガソーラー施設を12月4日に見学した。

－平成２６年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	教育研究支援センター	筆耕者	矢口 淳一
行 動 計 画	１．教育研究支援センター室設置による業務の効率化 ２．東北地区連携の推進（継続）		

１．教育研究支援センター室設置による業務の効率化

平成２６年４月から教育研究支援センター室を設置することとなり、テクノセンター内技術相談室を改修し支援センター室として整備された。６月の完成とともに仮のセンター室から移動をし、教育研究・実験支援グループの技術職員が一室に集りその後それぞれの業務依頼先へ出向くことになった。これにより業務に関する連絡および確認等の迅速化が図られた。

２．東北地区連携の推進（継続）

① 第１６回 東北地区国立高等専門学校技術職員研修への参加

東北地区の国立高等専門学校に勤務する技術職員の資質向上を目的に、東北地区６高専が持ち回りで毎年開催している研修会である。今年度は鶴岡高専を主幹校として、平成２６年８月２７日（水）～８月２９日（金）に、鶴岡高専と鶴岡市先端研究産業支援センター（鶴岡メタボロームキャンパス内）を会場に開催された。参加者は３１名で７件の技術課題の発表および業務内容の問題等について全員による討議を行った。八戸高専からは参加者３名で技術課題の発表は「高効率水車を探求するエネルギー環境教育教材の開発」と題して小屋畑技術職員が１件の参加をした。また、情報交換会にも本校参加者全員が参加した。

② 東北地区国立高等専門学校技術長会議への参加

上記技術職員研修の日に合わせて、平成２６年度東北地区国立高等専門学校技術長会議が鶴岡高専で開催された。６高専７名の技術長が集まり、鶴岡高専の鈴木技術長を議長に、「職員人事評価制度の実施について」、「技術職員研修のあり方について」など４件の協議題と１０件の承合事項について討議と情報交換を行った。八戸高専からは吉田技術長が参加した。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	空間構造デザイン系	筆耕者	今野 恵喜
行動計画	1. 協働によるものづくりの推進 2. 共同研究の推進 3. ルーブリックの作成		

1. 協働によるものづくりの推進

1年次の工学基礎Aでの「法則の発見」と「課題への個人的取り組み」から、2年次の工学基礎Bの「個人のアイデアをチームのアイデアにつなげ、つくりあげる」というコミュニケーションと協働によるものづくりへとつながる空間構造系の工学基礎教育が今年度で5サイクル行われたことになる。

2年生対象の工学基礎B「Paper Structure（紙で構造体を創ろう）」では、授業の目的に、「制約条件の中で、いかに大きな荷重に耐えられる構造の橋をつくるか。」の他に、「どのように自分の考えを他の班員に伝え、ディスカッションできるか。」、「課題解決のためのグループとしての創意、作品の説明。」を挙げている。

授業の流れは、第1日目に、基礎知識を学び、どのような形にすれば強い橋になるかをまず各自で構想図を描いたり、サンプルをつくったりして考え、それを班員に伝え検討し、1つのアイデアにまとめる。以上を報告書の「創作の際の自分で考えたアイデア・工夫（用紙の裏面に構想図を書いてみること）」と「グループでまとめられたアイデア・工夫」に記述させた。第2日目には、班として1つのペーパーブリッジを制作。そして、第3日目には、載荷試験と講評である。

今年度は、工学基礎Bについて作成されたルーブリックにより、到達目標に対する評価項目と水準を明確に示すことができた。

授業最終日に実施したアンケートの結果により、これまで検討し実施してきた指導法が、アイデアを伝えたり、まとめるところで活かされたと考えている（図1、図2）。また、制作においても、役割分担を決めて行われていたことがわかる。協働によるものづくりを推進できたと考えている。

※アンケートの結果は次のとおりである。

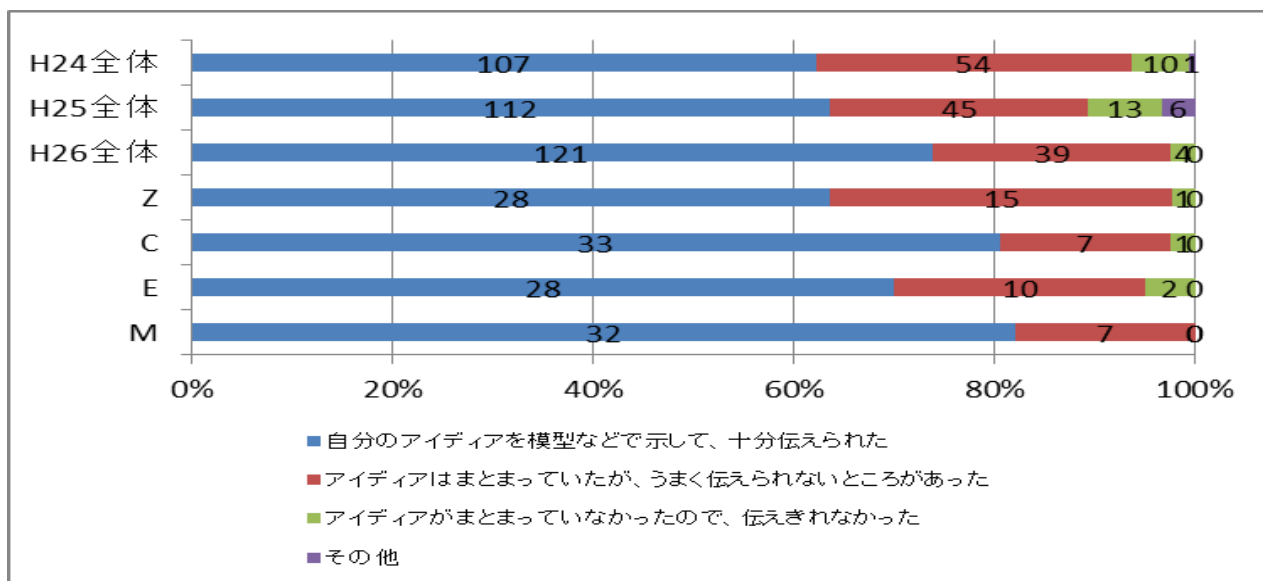


図1 アイディアは班員に伝えられたか？

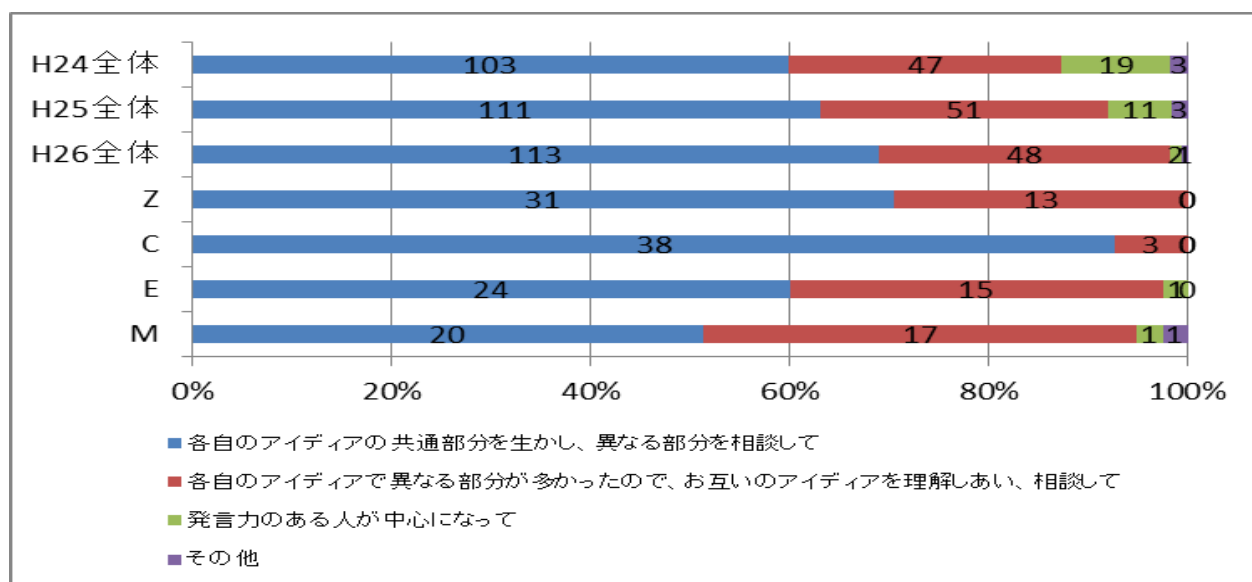


図2 アイディアは班でどうまとまっていったか？

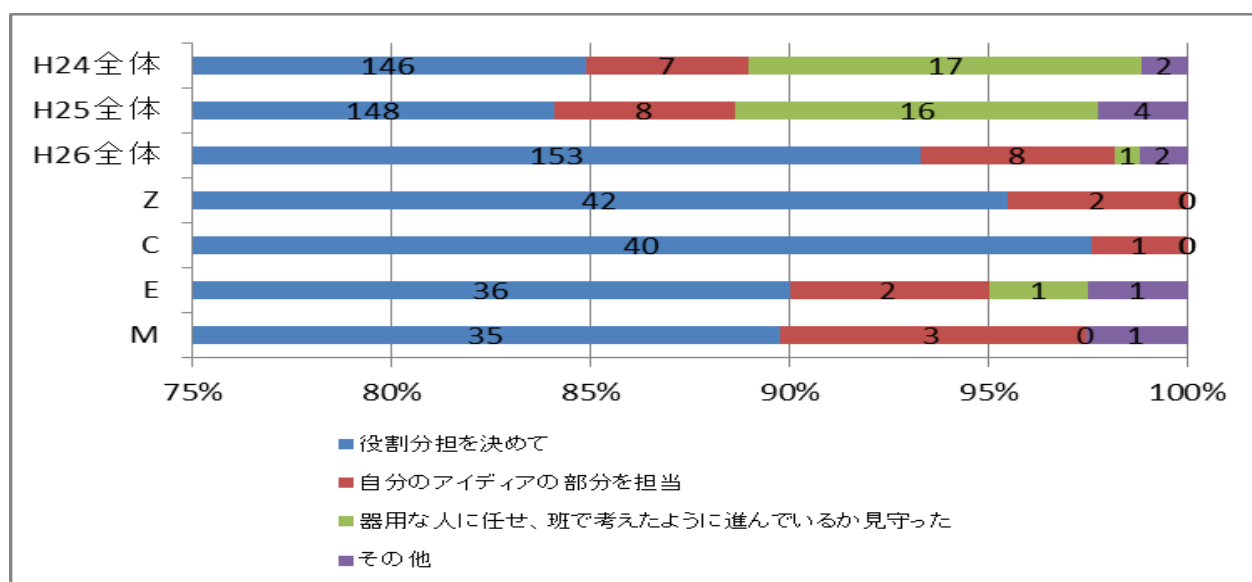


図3 制作についてはどうだったか？

2. 共同研究の推進

今年度は実績なし。

3. ルーブリックの作成

工学基礎Bのルーブリックが藤原教員により作成された。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	ロボティクス系	筆耕者	釜谷 博行
行動計画	1.授業内容の充実 2.外部コンテスト参加学生への支援		

1. 授業内容の充実

工学基礎Aでは、3回目の授業で演習時間が足りないという指摘を受けて、2回目の授業でHTMLファイルの作成まで行うように授業改善を行った。その結果、3回目の授業が予定通りにスムーズに実施できるようになった。また、公欠者を含めてコンピュータ演習課題未提出者に対して放課後に補習を実施した。一人一人の進度に合わせた木目細かく丁寧な指導を行ない、課題未提出者数を減少させた。

2. 外部コンテスト参加学生への支援

電子情報工学部の活動において、プログラミングコンテスト参加学生に対して技術支援を行った。その結果、全国高等専門学校第25回プログラミングコンテスト自由部門において「敢闘賞」を受賞した。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	機能創成材料系	筆耕者	舘野 安夫
行動計画	1. メンバー入換えに伴う授業内容の見直しと充実。 2. 授業評価方法の検討。 3. 他系との協力体制の見直し。		

I. 授業内容の更なる充実

授業開始より7年が経過した。テーマとして選定した「エジソンの電球」及び「光と色の科学」は、機能創成材料系としては最適のテーマと考えているが、多少のマンネリ化を感じる時期となってきたので、授業に使用する資料等を随時更新している。今年度は、ノーベル物理学賞の対象となった発光ダイオードの話題を取り入れる等の工夫を行なった。なお、化学系教員1名が減員となり、「光と色の科学」の化学実験の授業を非常勤講師に依頼した。

II. 授業評価方法の検討

次々とクラスが入れ替わる授業スケジュールのため、提出された課題の評価結果が学生に有効にフィードバックされにくい。アンケート等、何らかの方法を工夫する必要がある。

III. 協力体制の見直し

化学系教員1名が減員となり、非常勤講師に授業を担当してもらうことになった。物質工学科に協力を求めたが、物質工学科も同様の問題を抱えており結果として苦肉の策として系の業務を非常勤講師に依頼することになった。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	エネルギー系	筆耕者	南 将人
行動計画	1. 再生可能エネルギーの内容強化		

1. 再生可能エネルギーの内容強化

授業内容は、全1年生に対しては化石燃料や自然エネルギーの種類と使用量の経年変化、そして、ごみ処理等に伴う地球温暖化問題を取り上げた。全2年生に対しては各種エネルギーの変換効率の講義を行っている。各学年の講義の後には、風車の製作・改良そしてコンテストで構成されている。第一回目講義と二回目の改良時に、エネルギー問題は全ての学科共通に関係する事、最近のデータ調査や海外の状況等を加えた。また、再生可能エネルギーについては、従来の風力や太陽光発電が主であるが、その他の再生可能エネルギー資源、例えば森林や廃材等を用いた木質バイオマス発電、地熱そして海洋エネルギー等についても意識してもらう様に、随時、エネルギー取り出しの仕組や特徴等を取り入れて説明した。さらに、ゴミの減量と処理問題と共に新エネルギーの重要性を追加した。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	ナノテクノロジー系	筆耕者	杉山 和夫
行動計画	1. ナノテクノロジーを意識させる実験内容の向上		

ナノテクノロジー系では、半導体の微細加工や成膜に欠かせない要素技術の根幹にある真空並びに圧力についての理解と、材料のもつ表面を意識させることを目的として実験と講義を組み立てている。

『工学基礎 A』は1年生を対象とする内容であり、“空気と真空”のテーマのもと、金属やプラスチックボトルを加熱し空気を追い出した後に密栓し急冷して容器をつぶす実験を体験させて真空を理解するための導入としている。続いて、キャップをしたガラス瓶の中でろうそくを燃やし、その火が消えることを体験させて空気の気体成分を認識させている。

『工学基礎 B』は2年生を対象とするものであり、“気体の性質”のテーマのもと、種々の原料で化学カイロをつくり、金属鉄の表面酸化に必要な要素を理解する内容と、二酸化炭素を発生させてこれを捕集し、その化学的性質を調べることにより気体の性質の特異性を理解する内容とにより構成されている。

さらに、『工学基礎 B』において、第3週目には講義をとおして実験内容を復習しながらナノテクノロジーにおける真空技術の利用と気体の用途について説明している。

このコースがスタートして7年が経過した。当初の目的である専門分野の横方向の連携を強めることでは一定の成果があったと評価できる。しかし、コース担当者への仕事量が増えており、内容のスリム化を考える時期に来ている。その意味で27年度から『工学基礎 A』と『工学基礎 B』の内容を見直し、名称の変更とともにより充実した中身にすることを希望する。

今までの内容を整理する。『工学基礎 A』の実演では、金属容器を加熱して内部の空気を追い出し、続いて栓をしてから冷却すると缶が瞬時につぶれるのを見てみんな驚いてはくれるが、それが真空と大気圧のなせる技だと認識させるにはもう一工夫必要だと考えている。ただ、キャップをしたガラス瓶の中でろうそくを燃やし、その火が消えることを体験させて空気の気体成分を理解させる実験において、燃焼には酸素が必要であること、酸素がなくなると瓶の中は減圧になることが理解できており、真空の概念の理解に役立っている。

『工学基礎 B』においては、金属表面が酸素により酸化されると反応熱が生成することについて実験をとおして体験させており、“さび”の現象については理解が増したと考えている。さらに、酸素や二酸化炭素を発生させその性質を調べることで単体の気体の特性についても理解力が増したと考えている。しかし、これらの実験結果とナノテクノロジーとがどのように結びついているのかについては、『工学基礎 B』の第3週目に行う講義によるところが大きい。講義において、パソコンのマザーボードやCPUの実物を内覧させ、情報機器の製作にはナノテクノロジーが重要な技術となっていることを理解させている。内容をさらに充実させるようにナノテクノロジーをさらに深く意識できるような実演や実験を創意工夫して取り入れていきたいと考えている。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	環境・バイオテクノロジー系	筆耕者	佐々木 有
行動計画	1 授業内容を記載したテキストを作成することで、学生の理解の向上をはかる。 2 昨年度作成の工学基礎 B に続いて工学基礎 A のテキストを作成する。 3 工学基礎 B の講義を担当していた大久保教授の転出に伴い、大久保教授分担の講義内容の補充をはかる。		

- 1 過去2年度にわたって工学基礎 A、B の両方のテキストが完成し、学生の理解の向上に資することができた。
- 2 大久保教授分担の講義内容を三浦助教に分担してもらうことで、講義担当者を補充することができた。

－平成26年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	数理情報系	筆耕者	鳴海 哲雄
行動計画	1. 授業内容充実の検討と改善		

2年生「工学基礎B」において、内容の変更を行った。その内容は、グラフ理論の入門的な話題で歴史的問題、身近な問題、数学的なモデル等、電気情報工学科の学生は興味を持ってくれたようである。

ー平成26年度 行動計画の取組結果報告書ー

委員会等名称	産業教育系	筆耕者	戸田山 みどり
行動計画	1. キャリアに対する意識づけを目的とした授業の計画と実行 2. 教養教育の充実と基礎的教養の涵養を目的とした読書のためのブックリストの作成		

1. 1,2 学年の工学基礎 A, B の授業のなかで、産業教育系として将来の就労とワーク・ライフ・バランスを意識させるための講義を実施している。

また、4 年生の日本語コミュニケーションでは、エントリー・シートの書き方をとりあげ、就職活動をはじめとしてキャリア・パスにつながるような授業を実施している。

2. 4 年生の日本語コミュニケーションでは、論文作成という目的のために新書を資料とすることを課し、あわせて学内研究教育プロジェクトを利用して図書の充実を図った。

また、図書館ニューズレターへの寄稿等を利用して、人文社会科学系の教員が推薦した図書を図書館で紹介するなど、学生への情報提供に勤めた。